

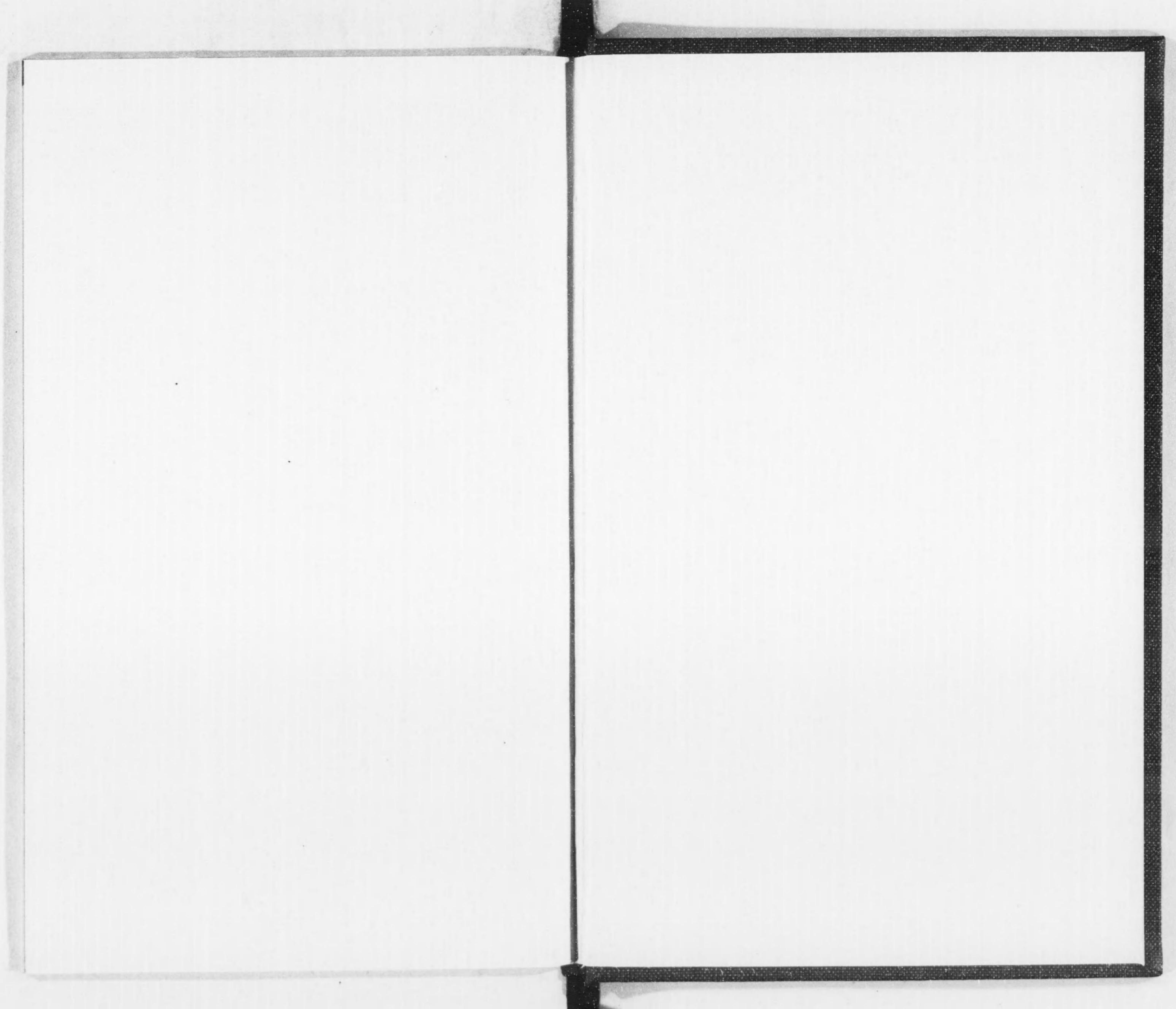
502

262



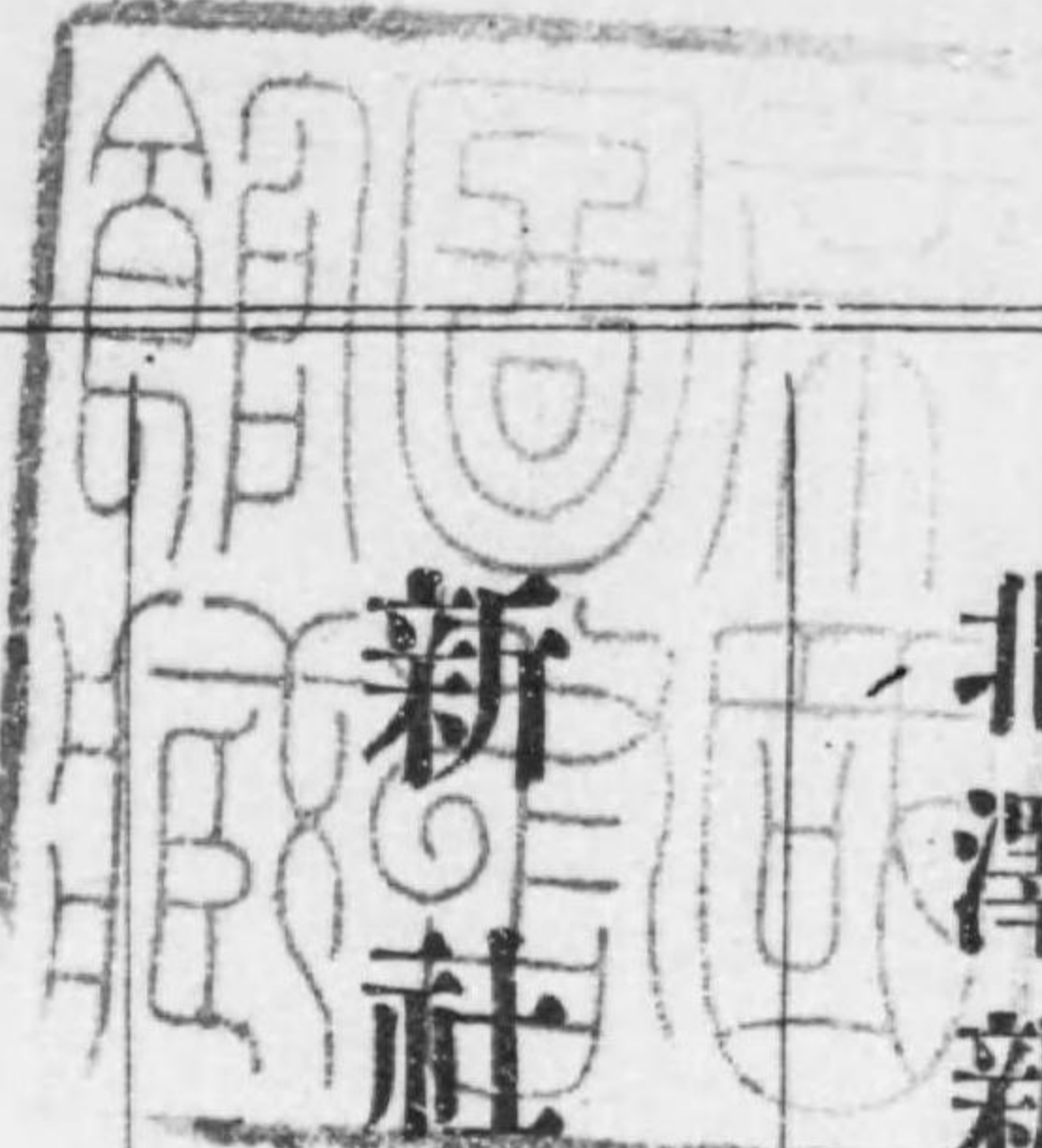
始





エト9948

102-262



北澤新次郎著

新  
社  
會  
の  
建  
設

東京 同人社書店發行

大正  
12.6.1  
内交

## 序に代へて

廢頽せるブルジョワ文化の介殻の内に合理的なる新社會的秩序を建設する核心は現在世界の所謂文明國に年を遂ふて高調進展する労働者の運動であると斷言するは敢へて過言の事ではあるまい。資本主義的經濟組織が齎す害毒と禍惡は之れに依つて不當の利益を受くる少數の特權階級者以外のものの等しく痛感してゐる處である。若し人類が正義と平等の觀念に基づく社會生活を享樂せんとするならば、單に彌縫的な姑息手段をやめて、根本的な社會的改造をなさねばならない。そして今日あらゆる抑壓と困難と犠牲とに堪へてなす労働者の集團的運動は來るべき新文明の中樞的勢力である事は少しでも此等の點に思を致したるものゝ理解ある處である。

本書は自分が過去數ヶ年間に執筆した論文を集めたものである。勿論淺學未熟

者の生産物であるから世人の参照にはなるまいが、之れに依つて少しでも何等かの暗示を與へる事が出来得たとすれば自分の喜は甚大である。

尙本書を上梓するに當つて淨書、校正等の人のいやがる手助をしてくれた大西重義君大西俊夫君並に武田萬兵衛君に謝意を表して置きたい。

大正十年八月七日

遠雷の如き濤聲を聞きつゝ、  
鵠沼の海岸にて

著者

此書を建設者同盟同人諸君に捧ぐ

## 目次

### 序に代へて

### 第一章 ギルド・ソシヤリズムの理論的體系

- 一 ギルド・ソシヤリズムの由來と其の進展……………一
  - 二 ギルド・ソシヤリズムの主張……………四
  - 三 ギルド・ソシヤリズムの理論的根據……………九
  - 四 ギルド・ソシヤリズムの新社會組織……………一三
  - 五 ギルド・ソシヤリズムの國家觀……………一六
  - 六 ギルド・ソシヤリズムと英國國民性……………二〇
- 第二章 藝術的社會主義とウイリヤム・モリス
- 一 社會主義者となりし根據……………二四

二	モリスを中心としたる社會運動	二八
三	モリスの社會主義思想	三九

### 第三章

#### 労働問題の倫理的考察

一	労働問題の本質	四四
二	濟組織の革新と労働問題	四八
三	労働條件は單なる手段である	五〇
四	資本家の時代錯誤的態度	五五
五	民主的産業組織の樹立	五八

### 第四章

#### 労働問題の目的と其の組織

一	労働運動目標の進化	六〇
二	労働者の政治運動熱の勃興	六四
三	議會政策の不信用	六六

### 第五章

#### 労働運動の建設的方面

四	労働運動の構成の推移(職業別組合より産業別組合へ)	七二
五	労働運動の合同化	八一
一	資本主義的勢力は未だ尙其大である	八七
二	労働者同志打の愚	八九
三	智識的指導者問題	九二
四	新社會建設の使命	九六

### 第六章

#### 労働運動と智識階級

一	智識的労働者問題は肝要である	九八
二	智識的労働者の社會的並に經濟的地位の逆轉	一〇〇
三	智識的労働者の團結の價值	一〇五
四	智識的労働者の將來	一〇七

## 第七章

### 賃銀制度の過去と其の將來

- 一 社會制度の非永久性……………一〇九
  - 二 賃銀制度の由來……………一一二
  - 三 賃銀制度の特徴……………一一五
  - 四 賃銀制度の種類……………一一九
  - 五 賃銀制度の理論的根據……………一二一
  - 六 社會改造の前提……………一二三
- ## 第八章
- ### 労働者と教育
- 一 特權階級の労働者教育觀……………一二七
  - 二 我國教育の本質的缺陷……………一三〇
  - 三 現状維持の教育方針……………一三三
  - 四 プルデョワ教育の失敗……………一三六

## 第九章

### 産業的平和の基礎

- 五 新教育的政策の確立……………一四一
  - 一 強調せる我國の労働不安……………一四三
  - 二 資本家心理の解剖……………一四四
  - 三 労働者團結の急務……………一四六
  - 四 労働者團結壓迫の一實例……………一四七
  - 五 我國労働運動を悪化せしむるものは誰れぞ……………一五一
- ## 第十章
- ### クロイズド・シヨップに就て(團體交渉權の要求)
- 一 クロイズド・シヨップの本質……………一五五
  - 二 クロイズド・シヨップの起源と其の發達……………一五八
  - 三 クロイズド・シヨップの實行的手段……………一六一
  - 四 雇主及労働者の態度……………一六六



○ 第十一章 罷業破りと労働組合

五	クロロイズド・ショップの價值	一七〇
一	労働組合員は少数である	一七四
二	罷業破りの特徴と其の種類	一七八
三	専門的罷業破り	一九三

第十二章 労働運動の一轉機

一	労働運動の世界化	一九一
二	各國労働運動の變遷	一九二
三	世界大戦と労働運動	一九八
四	社會改造と労働者	二〇〇

第十三章 英國労働運動の傾向

一	戦前の英國労働者	二〇九
---	----------	-----

第十四章 米國労働運動の趨勢

二	戦時に於ける英國労働運動	二一一
三	英國労働運動の今後	二二五

第十五章 我國労働運動の進展

一	労働運動の主潮	二五三
二	近世に於ける労働者生活の不安	二五五

第十六章 戰時及戦後の米國労働運動

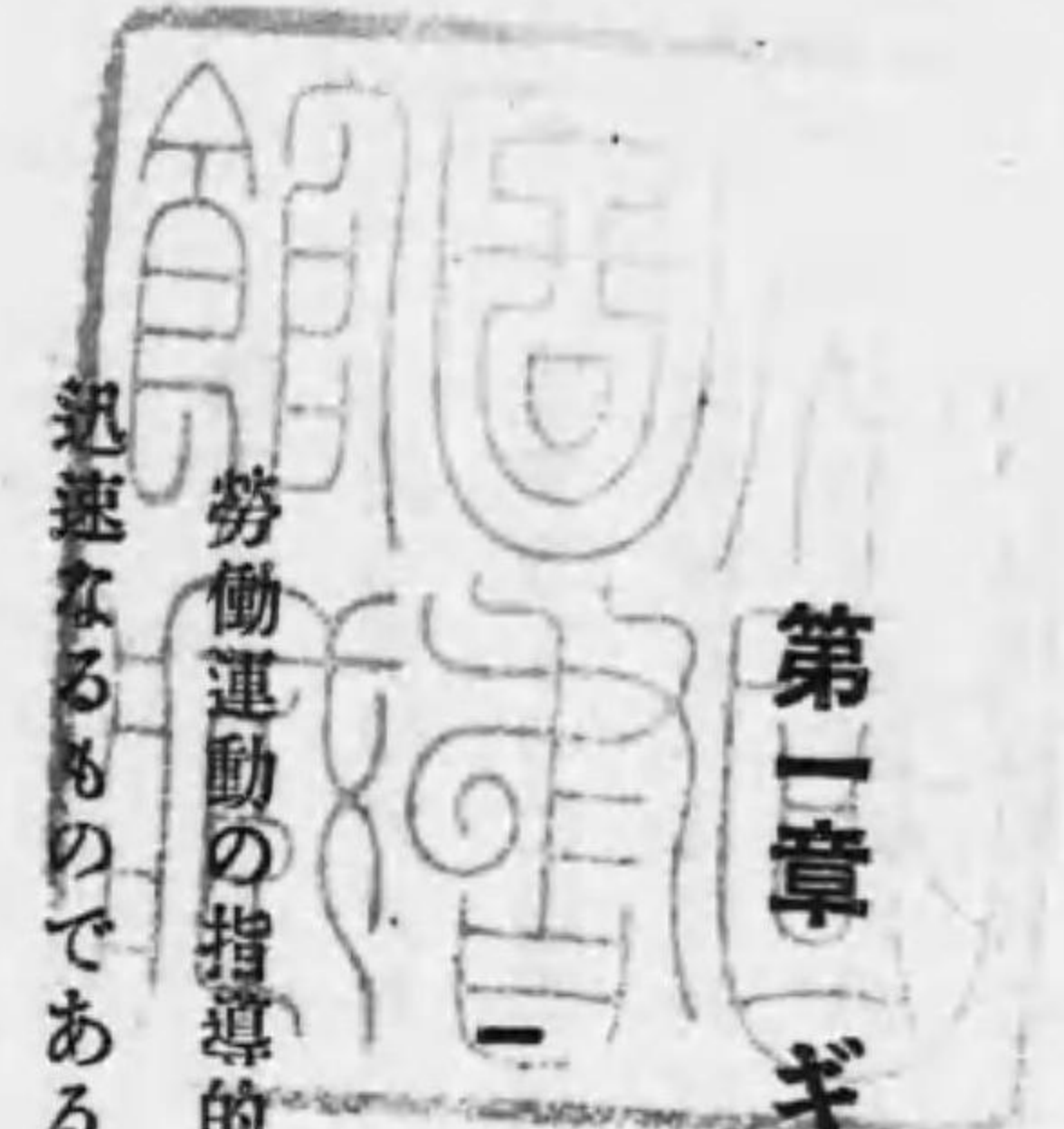
一	殖民時代に於ては労働運動を見ず	二三〇
二	労働運動の萌芽	二三二
三	ナイツ・オブ・レイベー	二三四
四	米國労働聯合會	二三九
五	I、W、W、の出顯	二四三
六	戰時及戦後の米國労働運動	二四六

三	労働者階級の覺醒	二五九
四	我國労働問題の發生の自然性	二六一
五	同盟罷業は罪惡でない	二六五
六	労働者團結機關の效果	二六九
七	我國労働者の心理的狀態の變遷	二七一
八	労働プロレタリアを排す	二七四
第十六章 經濟界の不況と我國労働運動の前途		
一	反動來と労働運動の沈思期	二七七
二	覺醒せる少數者の失望と真正なる労働者の懊惱	二八〇
三	失業問題と労働運動の目標	二八四
四	新産業的秩序の建設	二八六

目次 終

# 新社會の建設

## 第二章 ギルド・ソシヤリズムの理論的體系



### 一 ギルド・ソシヤリズムの由來と其の進展

労働運動の指導的哲學としてのギルド・ソシヤリズムの發達は近來豫想以上に迅速なるものである事は頗る興味がある。

一體ギルド・ソシヤリズム又はナショナル・ギルドの運動は極めて最近の事で、此の思想の始めて具體化せられたものは千九百六年ベンチーの「ギルド制度の再興」(The Restoration of the Guild System)である。そして丁度其頃オレーヂ

も *Fortnightly Review* にギルドに關する意見を發表し、其後ホブソンも此運動に加入して其の進展を助長し、オレーヂの編纂になるホブソンの著書「ナショナル・ギルド」(National Guilds; an Enquiry into the Wage System and the Way Out)の出版せらるゝに及んでナショナル・ギルドの運動は漸次其の内容が確定的のものとなつて來た。

然し當時ナショナル・ギルドの思想に共鳴したものは極めて少數の知識階級に屬するものに過ぎなかつた。ギルド・メンの機關雜誌たる「新時代」(New Age)は比較的程度の高いものであつたし、一方英國の労働運動の雰囲気はナショナル・ギルドの思想を思考するに不適當なる時期であつたことが原因したのであらうか、労働者間には未だ少しの勢力をも有しなかつたのである。ところが千九百年から歐洲戰亂の開始せらるゝ迄の間労働不安はナショナル・ギルド思想進展の良好なる背景と素地を與へたのである。即ち非常なる熱誠と期待とを以て英國の

労働者が其の活力を傾到したる政治運動の效果は全く裏切られ、加ふるに間斷なき物價の昂騰は労働争議を多からしめ、労働者の心情は日に荒涼たらざるを得ない。茲に於て労働者は從來彼等のなしたる運動の方針に尠からざる缺陷のある事を深刻に覺知したのであつて、労働者は一方に於ては議會政策が労働階級解放手段として信賴すべからざるものである事を會得したると共に、他方に於ては労働運動の使命は資本主義的經濟組織の現状維持の下に於ては到底貫徹する事の不可能なるを理解し始めた。これは確かに英國労働運動史上の一轉機である。此の時に當りて英國の労働者に對して猛烈にサンデカリズムの思想を宣傳し始めたのはトム・マン及彼れを中心としたる「産業的サンデカリスト教育同盟」(Industrial Syndicalist Education League)の人々であつた。尤も之れより以前に社會主義者は労働者の内に可なりの運動をしてをつたが、割合に勢力を伸暢する事が出来なかつた。しかし此時分には既に社會主義を信奉する者は知識階級や労働者階級

内に甚しく増加して來た。そこで此時に既にナショナル・ギルド運動に加盟し、しかも熱心なる同主義の研究者であるコールは從來専ら知識階級間に普及せられたるギルドの思想を一般の労働者の間に宣傳して之れを民衆化せんと試み、千九百十四年の末頃から數ヶ所で協議會を開催してナショナル・ギルド思想の宣傳に努力した。此企畫は可なりの効果を奏し、爾來ギルド思想は労働組合、社會主義者及知識階級間に尠からざる注意を喚起し、之れに對する共鳴者も急速なる増進を見、幾多の労働組合に於てはナショナル・ギルドの思想に依つて其の運動の目標を樹立してゐるものも出て來たと云ふわけである。(Cole, Chaos and Order in Industry pp. 48.-54.) 然らばナショナル・ギルドの思想は如何なるものであるか、之れが概要を説明して後に其の主張する新社會組織を論究して見たいと思ふ。

## 二 ギルド・ソシヤリズムの主張

ギルド・ソシヤリズムの内容は其の大體の體系に於ては確定してゐるものがあるが、其の詳細なる點になると随分ギルド・メン内に意見の相異がある。此等の事は後に述べる事とする。ナショナル・ギルド主張者の考へに依ると労働者が其の階級的解放を謀らんと欲せば先づ自由獨立の生産者とならねばならない。其れには今日の如く彼等をして資本家に隷屬せしむる賃銀制度の打破が其の解放的階梯として最も必要である。故に從來の如く労働者が其の運動の目標を常に労働條件の改善に置き、労働者の物質的快樂を成就せんとしたるは全く見當外れの見方で労働運動の眞の目的は労働者をして單に貧乏の状態から脱却させるのではなく其の背後に横はる隷屬の境遇から解放させる事で、其れに到達して始めて労働者は自由獨立の人格者たる事を得る。コールは此點を最も明瞭に簡短なる句を以て指示してゐる。「貧乏は徵候である。病根は隷屬である。富樂と窮乏の存立は放恣と隷屬の存立に伴ふ必然的の歸結である。多數の人間は貧乏なるが故に奴隸の境遇

にあるのではなく、奴隷の状態にあるが故に貧乏なのである」(Cole, Self-Government in Industry, P. 111)。そして今迄の賃銀制度は労働者をして奴隷の桎梏に  
つなぐものであるから先之れから解放せられる必要がある。蓋し賃銀は要するに  
労働と稱する貨物に支拂はるゝ代價に與へられたる名辭である。(Hobson, National Guilds, p. 17)そして労働者が其の労働力を資本家に賣却し、其の代價として  
賃銀を受取る事になると其結果は如何なるかと云ふとホブソンは次の如く云つ  
てる。

(1) 若し人が其の労働力を賃銀にて賣却すれば彼れは其の生産物に對する總べて  
の權利を喪失する。

(2) 彼れは又賃銀を受取る事に依りて、就業状態及就業期間に關する雇主の裁定  
權を認容せざるを得なす。

(3) 更に彼れは賃銀を受取るが爲めに其の潜在する労働力を奪掠され他人に附與

(6)

せらるべき事を是認しなければならなす。(ibid., p. 80)

からなると労働は一種の貨物と同一のものとなり生産費の一要項たるに過ぎなく  
なり、労働者の人間性は全く没却されて労働者は資本家の願使を甘受しなければ  
ならないから昔日の奴隷と少しも異なる處はなくなる。否或點に於ては今日の賃銀  
奴隷は往時の奴隷より劣悪なるものがある。尤も野蠻時代の奴隷は其の一生を通  
じて所有主の意思の儘に働くのであるが、現代の賃銀奴隷たる労働者は一年なり、  
一月なり或は一日間雇主の命ずる所に依つて働くのである。然し若し人が代價を  
以て一生涯賣買されるのが悪いなら、人が一年、一月、或は一日賣買されるのも  
亦善くなす。根本的の弊は賣買される事であつて、其の期間の問題ではなす。  
(Cole, Labour in Commonwealth, p. 21)のみならず生活の安固と云ふ側から見  
ると賃銀奴隷は動産奴隷よりも不安の地位にある。なぜなれば動産奴隷の仕事は比  
較的繼續的で、彼れの主人は單に仕事を與へなければならなかつたばかりでなく、

(7)

失業、疾病、壯健の時にも常に生活資料は與へる義務があつた。勿論其の安固は自由や權利を否定されたるものであつた。しかるに現時の少しばかりの不完全なる個人的自由を許されてゐる賃銀奴隷は以上の如き保證は少しもない。其れは賃銀制度がしからしめたものである。だから今日の問題は奴隷的地位から脱却されたる完全なる個人的自由に基づく個人の安固の確立を計る事であると言ふ事も出来る。(Cole, Self-Government in Industry, p. 163)であるから労働者が其の解放的段階としてなすべき第一歩は賃銀の爲めに労働する事を拒絶して更に生産の管理權を資本家の手からとり上げて労働者の手に收めなければならぬとしてゐる。之れが爲めには從來の如き小規模な職業別組合クラフトユニオンでは駄目だからもつと廣汎のしかも基礎の鞏固な産業別組合インダストリアルユニオンを作り、之れには單に筋肉労働者ばかりでなく、知識的労働者も亦相提携をして之れが成就に盡さねばならないと力説する。斯くして労働者は一方に於ては今日の如く資本家と云ふ特權階級の爲めに桎梏に繋がれる

事なく、産業管理權を完全に労働者の手中に掌握し、かくして産業自治を實現し、他方に於ては現時の如く資本家の傀儡たる國家を改造して消費者の代表機關なる職掌的組織に轉じて之れと協調提携して社會的奉仕のために労働の快味を感知せんとするのがナショナル・ギルドの主潮の骨子であるが如く思はれる。

### 三 ギルド・ソシヤリズムの思想的根據

ギルド・ソシヤリズムを思想上から見ると一方に於ては從來英國に於てシドニー・ウェブ等の主張したるコレクティブイズムに對する反抗と、他方に於てはサンヂカリズムの變形を試みんとする一種の妥協的哲學であるとも云へる。此點に關しては既に小泉信三氏が詳細に論究してゐるから茲では極めて簡短に述べたいと思ふ。(小泉信三著社會問題研究頁一二三―二三三參照)蓋しコレクティブイズムの

主張に依ると總べての生産手段を國有とするのみならず、其の管理統制も亦國家の手にてなさんとするのであるが、ギルド・マンは之れに對しては頗る不満で斯くなつても労働者の状態は改善せられざるのみか、其の地位は少しも向上しない。何んとなれば總べての生産手段を國家の所有と管理の下に置いた處で賃銀制度を撤廢せざるに於ては労働者が掠奪せらるゝ事は以前と少しも異ならない。唯從來は個人の資本家が労働者の労働力を盗用したものが、今度は全社會が集合的に労働力を掠奪するに過ぎない。要するにコレクティブイストの主張する國家社會主義は國家資本主義に外ならぬ。(Cole and Mellor, *The Meaning of Industrial Freedom*, p. 40)然るにギルド・ソシヤリズムの思想に依ると生産手段の所有權は國家に委託するが、其の統制管理は總べて労働者の自治的運用に據るのであるから生産に就ては労働者は何人にも掠奪される恐れはない。約言すれば國家社會主義の下に於ては産業は上方から統御される官僚的のものであり、ギルド・ソシヤ

(10)

リズムの下に於ける産業は下方から支配される民主的のものである。(ibid., pp.

48-41)

斯くの如くギルド・ソシヤリズムは集産主義の缺陷と其の弊害とを指摘するが、さりとて集産主義を絶體に見捨ててゐるわけではない。即ちギルド・マンは總べての生産手段を國有若くは市有にする事は必要だが、國家が其の管理運用迄自らなすに於ては其れは餘りに消費者の立場のみを顧慮し、生産者即ち労働者の自由、獨立と云ふ事を等閑視してゐるからいけない。だから産業の經營管理は之れを全く生産者たる労働者の團體たるギルドに委託して干渉すべきものでないと力説する。此の最後の點に於てはギルド・ソシヤリズムはサンデカリズムに甚だ能く似てゐる。サンデカリズムの如何なるものであるかは今此處で説明する必要もなし又其餘裕もないが、其の主張する處は労働者階級の解放を議會政策に依つてなさんと欲するは迂愚の極りで、之れをなすには必ず労働者の直接行動を以て

(11)

しなければならぬ。斯くて資本家階級及其の随伴物なる國家を打破し、總べての生産者たる労働者の團體である組合(サンヂカ)(Syndicat)の手中に收めんとするものである。故に労働者の政治運動過重視と國家萬能主義とに反抗して顯はれたるギルド・ソシヤリズムはサンヂカリズムの思潮に刺激せられたる點が決して尠くない。殊にギルド・ソシヤリズムの一方の闘士たるコールは、其の思想が幾多の點に於てサンヂカリズムに共鳴する點が多い様に思はれる。しかしナショナル・ギルドを信奉する者はサンヂカリストが専ら生産者の立場のみを重要視して、消費者の見地を等閑視すると云ふ點に於て之れに反抗する。即ちギルド・マンの見る處に依るとコレクティブイズムは餘りに消費者專制の弊に陥りサンヂカリズムは極端に生産者專制の誹を免れないから、眞理は此二者を調和する處にあるとして其の協調を試みたものであるとも解釋が出来ると思ふ。そこで吾人は更に進んでナショナル・ギルド主張者の社會組織の體様の概略を述べる必要がある。

(12)

#### 四 ギルド・ソシヤリズムの新社會組織

ギルド・マンの新社會組織は原則は二元論で之れを職掌(フアンクシヨニ)(Function)に仍つて存立せしめんとするのである。即ち一方は生産者の代表機關としてギルドの組織を以てし、之れに生産經營に關する任務を附與し、他方には消費者の代表機關として國家の對立を以てして之れをして生産者の專制を抑止し、消費者の利益を保護せしめる仕組である。そして各種のギルド間に於ける諸問題は生産者議會に於て之れが解決をつけ、又他方に於ては消費者議會を開催して消費に關する諸事項を仕末をつけ、生産者消費者兩方に亘る事項の起つた場合には兩者より均等の代表者からなれる共同委員に依つて協議する事となるのである。前にも述べた通りギルドは生産經營の全責任を受け、其の運用に於ては何等他人の干渉を受けないで、全然ギルドの自治作用に依つてなすのだが、生産手段の所有權は國家にあるの

(13)



だから、ギルドは其の委託せられたる生産手段に對して租税なり若しくは賃借料  
なり仕拂ふ事とする。其の金額の決定などは上述の共同委員が協議して之れを裁  
定する事となる。

(14)

更にギルド其れ自身の組織並びに構成に就てはギルド・マンの間に多少の異れ  
る見解がある。ギルド・ソシヤリズムは一名ナショナル・ギルドと稱せられる、か  
ら其の前提として國民<sup>ネーション</sup>の存立を以てする。即ち諸種の職業並びに勤勞に従事する  
ものは各産業的組合を組織し之れに相當の自治權を與へ、最後に此等を國民的に  
綜合するもので、其の理由はホブソンの意見に依ると古來人類生活の重大なる要  
素はナショナルリテイ(Nationality)の觀念で、今日に於ても民主的國民の最大要  
素として個人の意識中に働いてゐる。(Hobson, National Guilds and the State  
P. 103)處が從來の國民的生活は其れを構成する市民の經濟的權力を除外された  
る受動的のものであつたが、眞の民主的生活は市民がギルドを通して勞働を獨占

し、其れ自身の經濟的權力を支配するに於て實現する事が出来る。かくして始め  
て國民的生活並びに個人的生活は發動的のものとなり、益豊富に且完全なものとな  
る。(Ibid., p. 103)かうした國民的な動もすると中央集權的な傾向に極力反對  
するものは同くギルド・マンであるが、少しく其主潮を異にせるはベンチーであ  
る。ベンチーの信ずる處に依ると個人の自由及勞働の愉快化はギルド思想に依つ  
て實現し得るが、其の組織構成はホブソン一派の主張するが如き國民的ギルドで  
なく、中世紀に隆盛であつた地方的なものでなければならぬと力説する。且つ現  
代の大規模生産は徒らに個人の不安定と獨立心を毀損し又複雑なる機械は精練な  
る技巧の發達を阻害するとの理由で之れを排斥し、個人の自由の道は一方に於て  
は大規模生産を基礎とする産業主義(Industrialism)を除去し、他方に於ては機械  
の使用を確然と制限して手工業を復興し、地方分權時のギルド組織にするにある  
ペンチー(Penty, Guilds and the Social Crisis, p. 50-51及びp. 55)要するにペンチ

(15)

「の思想は中世に其覇を振ひたるギルド制度を其儘再興せんとするのであるが如く思はれる。そこでホブソン一派のナショナル・ギルドに對してはギルド思想其物に對しては賛意を表してゐるが其の組織並びに構成に對しては始めはひどく反對したものである。従つてホブソン等がギルド・ソシヤリズムをナショナル・ギルドと改名した事に就ても、改名は遺憾であり且つギルド・ソシヤリズムなる名辭の方が再興的叫びとして適當であるとさへ云つてゐる。(Penty, Old Worlds or New, p. 50) 然し最モペンチーはナショナル・ギルド運動に對する態度を變へた。其れは今日のナショナル・ギルドの實現はやがては自己の主張する中世紀的ギルド制度の階梯的一步であると考へるに至つたからであらう。

(16)

##### 五 ギルド・ソシヤリズムの國家觀

ギルド・ソシヤリズムの主張する社會組織を論究するに當て最も重要な且つ興味が多い問題はギルドと國家との關係であらう。此點に於てはギルド・マンの見方はアナキスト若くはサンデカリストの其れと著しく異なるものである。其れが組合社會主義の一特徴とも云へる。尤も國家とギルドとの交渉に對する關係はギルド・メンの内に殊にホブソンとコールとの間に猛烈なる討議がされたが其の大體の態度はアナキスト並びにサンデカリストの其れとは餘程相違がある。今其れを極めてザツと述べよう。サンデカリストの見る處では國家は資本主義の産兒で、資本主義の崩壊と共に當然滅亡すべきものでプロレタリアの社會には其の存在の必要がないとしてある。アナキストも殆んど同様の態度を保持してゐる。是れに反してギルド・メンは現時の國家は特權階級たる資本家の走狗傀儡であるが、國家は其の本質に於ては左様なものでなく、唯從來資本主義の跋扈の爲めに其の本然の職掌を發揮出来なかつたものである。故に資本主義が倒壊してプロレタリアの社會が來たら國家は其の本來の任務を果す爲めに其の存在を必要とす

(17)

る。即ち國家は消費者の代表若くは個人の社會生活をなすに當つて共通する事項を取扱ふ機關としてなくてはならないものであると主張し、現に國家の存立を否定するサンデカリズムでも生産と消費との關係を調節する爲めに中央統計委員會を設置せんとするが如きは名目は國家ではないが、其實質に於て國家の變形したものではないかと反問してゐる。

國家に對するギルド・メンの態度は大體に於て一致してゐる。しかし其の先は種々異つた見解をギルド・メンは固執してゐる。即ちコールは生産者の利害代表機關としてギルドと消費者代表機關として國家とを對立せしめ各其の主權を統御し、此兩機關の間に勢力の均等を得せしめんと努めるに對してホブソンはコールの共分主權コインメリチーには反對で國家にのみ主權の存在を認容し、其の從來の職務より經濟的職掌を全然ギルドに委託し、國家は其の本質的職掌である教育、法律、衛生、軍備、警察、外交、中央並びに地方政治等を遂行すべきであると説いてゐる。そ

してホブソンは國家の任務は主として精神的のものである事を高潮し、「國家は唯に國民の意思に順應するのみならず、尙其の國民的意思の背後に横はる精神的衝動を解釋し、表現し且つ受納せねばならない。否こればかりではない國家は市民の執行的機關として市民を正當なる結論に指導せねばならない」と主張してゐる (Hobson, *National Guilds and the State*, p. 109) 更にベンチーはホブソンの國家の精神的職掌を否定して國家當然の任務は社會の軍事的、内治及經濟的保護であると云つてゐる。(Penty, *Guilds and Social Crisis*, p. 72)

思ふにギルドと國家との交渉問題はナショナル・ギルド思想の中樞的要素の一項目であつてコール及ホブソン兩者の見解の相異は各自の國家の本質觀の異なるに所以するので其の詳細に互つて叙述して見たいが餘裕がないので此の位にして置きたい。兩者の論議の大要は Bechhofer & Reckitt, *The Meaning of*

*National Guilds* pp. 355-367 及び Hobson, *National Guilds and the State*, pp.

96-143 参照)但しコールもホブソンも各自ナショナル・ギルドの思想は未だ其の完成の域に達したわけではないから其の見解も亦決して斷定的のものでない事は宣明してゐるし、殊にサンデカリズムの思想に共鳴する點の多いコールの如きは最近露國に於けるツヴェイット・シイステムの發達に著しく刺激と教訓を得て其の國家觀も甚しく變更し行くらしく思はれる。

(20)

#### 六 ギルド・ソシヤリズムと英國國民性

ゾムバルトがサンデカリズムの本質を説明するに際して、斯くの如き主義が佛蘭西に於て發達したのは佛蘭西人の國民的性格の依つて然からしむる處であると云つてゐる。更に「サンデカリズムの如き教旨を實行する事の出來得るものは佛蘭西人か伊太利人である。彼等は概して事をなすに瞬間の衝動に驅られてするもので、直ちに熱情に燃へて全力を以て行動する。且彼等は其の溢れんばかりの情緒

を吐露するに憚らず、何等の考慮を廻らねど」(Sombart, Sozialismus und soziale Bewegung, Achte Aufl. S. 124)と述べてゐる。唯に佛蘭西人の性格がサンデカリズムを創造したるばかりでなく、佛蘭西に於ける社會的環境と雰圍氣がかゝる思想を構成するに好良なる状態にあつたとも云へはしまいか。之れと同様の事がギルド・ソシヤリズムに就ても亦云へる。ギルド・ソシヤリズムが英國に起つたのは確かに由來立憲的な妥協的な然かも創造力には比較的豊富な英國の國民的性格と、當時社會運動の原動力の勢力の行き詰つた社會的雰圍氣の一産兒ではあるまいか。

兎も角ナショナル・ギルドの運動は比較的最新の現象であり、其の新社會組織は随分不完全な不徹底な點が多いにも係はらず、其の近來の急激なる進展は確かに労働運動の指導的哲學として尠からぬ刺激と教訓と効果があると思ふ。

序にナショナル・ギルドの主潮を知るには大體左の書に依れば便利であると信

(21)

- Cole, World of Labour.
- " Self-Government in Industry.
- " Labour in Commonwealth.
- " Social Theory.
- " Chaos and Order in Industry.
- " Guild Socialism Restated.
- " The Future of Local Government.
- Cole and Mellor, Meaning of Industrial Freedom.
- Hobson, National Guilds; an Enquiry into the Wage System and the Way Out.
- " Guild Principles in War and Peace.
- " National Guilds and the State.
- Beehofer and Rickitt, The Meaning of National Guilds.
- Penty, Old Worlds for New.

- " Guilds and Social Crisis.
- " Guildman's Interpretation of History
- Taylor, The Guild State, its Principles and Possibilities.
- " Guild Politic.

## 第二章 藝術的社會主義とウイリアム・モリス

(24)

“Fellowship is life and lack of fellowship is death”

William Morris

### 一 社會主義者となりし根據

天成の詩人であつたウイリアム・モリスが其の藝術を通じて體驗したる社會主義的思想は蓋し近代社會主義史上の一異彩である。藝術の總べての方面に甚大なる功績を擧げたる彼れは社會主義思想並に運動の進展に貢獻した事も尠くない。尤も彼れの主張した社會主義はマルクスの其れと比較すれば其の動機及見解に於て特殊の相違があるが、しかしモリスの藝術的衝動より得たる社會主義的理論は決して無謀な氣まぐれの空想の結晶したものではないのであつて、一方には深く人類の歴史の跡を考察すると共に他方には藝術に對する熱愛と其の實行を欲求

する結果現代文明の本質的缺陷の暴露と憎厭となつて顯はれたのである。(How

I became a Socialist, Collected Works of William Morris, Vol. XXIII, P. 280)

實にウイリアム・モリスは誤れる夢想詩人の如く社會的雰圍氣に暗愚、無頓着ではなかつた。彼れは總べての藝術は人生に感觸したものでなくてはならないもので、社會的生活の表徴であらねばならないと考へた。そして彼れは、テラーの指摘した如く大部分の眞の詩人の如く鋭敏なる實際的心理の所有者であつて、事物の表面のみでなく、其の背後に徹して觀察する力は、かゝ想像力のないが爲めに株式取引所や商家に走る人々の比でなかつた。(Taylor, Leader of Socialism p. 111)

換言すれば彼れの藝術は社會民衆の生活に基礎づける美の創造である。此の藝術觀より彼れの社會觀も出發してゐる。即ち社會民衆の大部分は人々が欲求するものの貨物の生産者であるが故に、此等の生産をして出來得る限り愉快に幸福に

(25)

しなければならぬ。そして生産に従事する事は其れに依つて單なる物質的の反對給付を目的とするのではなく、生産其れ自身に絶大の歡喜と満足を感じる事である。

(26)

處が彼れが其の周圍を見れば現代の資本主義的社會組織は之れと全く反對の現象を呈し、社會の少數者は生産の總べての手段を掌握して勞せずして放恣と豪奢に耽り、大部分のものは其の日の必需品を得るために過重なる勞苦をなし、醜惡と困憊の雰圍氣は社會に充滿してゐる。斯くの如き状態は必然的に現代文明に對するモリスの反抗と憎厭を惹起し、之れを根本的に改造して總べての生産者が幸福裡に美はしきものを生産する新社會的秩序の建設を熱望せしむるに至つた。

茲にモリス自身の言辭を借りて云へば「吾人の記憶すべき事は文明は勞働者を驅つて斯くの如き貧弱にして且つ悲惨なる存在に至らしめたがために、彼れは殆んど彼れが今日持續するものよりも更に善き生活を考慮する事が出来ない。そし

て藝術の使命は斯くの如きものに對して充實せる合理的生活の眞實なる理想を指示するにあるもので、斯の如き生活は美の認識と創造並びに眞實の歡喜の享樂は日々のパンの如く必用缺くべからざるものなる事を感じしめるもので、如何なる人も理由なくして斯くの如き權利を剝奪せらるべきものではなく、之れをなさんと試みるものあらばあく迄も反抗すべきものである。

(How I became a Socialist, Collected Works of W. Morris, XIII, P. 281)

要するにウイリヤム・モリスは現代の如き奴隸制度配下に於ては眞實の藝術は發生しないと痛感した一人で、彼れが必然的に今日の資本主義的社會組織に對する反逆者たるべき運命を持つて居つた事は彼れの最も忠實なる生涯の叙述者たるマケイル教授の名著を讀んでも、近くはグレンジャーの回想録を見ても明瞭に理解せらるる處である。(J. W. Mackail, Life of William Morris, Vols., J. B. Glaser, William Morris and the Early Days of the Socialist Movement 參照)

(27)

## 二 モリスを中心としたる社會主義運動

ウイリヤム・モリスが公然として社會主義運動に參與したるは千八百八十三年一月十三日に其の當時社會主義宣傳の機關として起つた「民主同盟」(Democratic Federation)に加盟したるに始まる。尤も之れより以前彼れがなしたる公共的運動は多少ある。例へば千八百七十六年には中世紀に設立せられたる歴史的建造物の保存維持のために「古代建造物保護協會」(Society for the Protection of Ancient Buildings)の設置に努力し、自ら其の幹事となつて資金と勞力とを提供した。又同年「東方問題協會」(Eastern Questions Association)なるものを起し、英國政府の東洋政策を攻撃し、露土戰爭中の如きは該會の會計となつて活動した。そして戰爭の開始せらるるや同會は「勞働者に檄す」と云ふ宣言書を發した。

之はウイリヤム・モリス自ら執筆したるもので其の冒頭に戰爭の責任者の誰れなるかを問うて、英國を戰爭の渦中に投ぜしむるものは株式取引所の貪慾なる賭博者や軍隊の怠惰なる將官、各種俱樂部の欺瞞者、戰爭に依りて何等の損失を感ぜざる者の朝餉の食卓に供へる興奮的戰爭報導を欲して居る御用商人等の所爲で、彼等は富裕階級の走狗である事が氣付かないのみならず、此等の者が勢力を掌握するに於ては吾人の向上を杜塞し、自由を剝奪し、無責任なる資本家の爲めに永遠に隸屬せしむるに至る事は明白である云々。之れに依つて見るとモリスは政府の政策は支配者階級の傀儡であるこの信念から被治者たる勞働者に檄したのである。しかし戰爭は漸次群衆の共鳴する處となつたためモリスは最早や政治運動では到底社會の改革は不可能である事を自覺して政治運動を斷念した。當時彼れが友人に送れる書翰の一節に曰く「自分は政黨政治は見切りをつけ、一切斯くの如き事に就ては頭を煩はさない事にした。新聞も読み度くない、自分の仕事に



専心従事する考へである。』と

政黨政治に斷念したモリスはもつと根本的な運動に依つてゝなければ社會組織の變革は期し難いと思つた。即ち支配者階級の政治的權力を打破するには其の經濟的勢力を驅除する必要があると考へる様になつた。其れが爲には社會組織の改造を直接に目標とする社會主義運動でなければならぬと感じて、丁度其の當時創設せられた「民主同盟」に自ら進んで加盟した。

民主同盟はヘンリー・エム・ハインドマンの主唱の下に出來た社會主義の宣傳機關で、憲章黨運動以來沈滞して奮はなかつた社會的雰圍氣に一大振動を與へたるもので其の設立當時の具體的方針は確然として居らなかつたが、其の思潮は純然たるマルキシヤンで其の趣旨は資本主義の打破に基く社會主義的社會組織の樹立にある。そして其の會員の増加は左程顯著ではなかつたが、英國の著名なる社會主義者の大部分例へばエルンスト・バックス、デョインス、エリナー・マルクス、デ

ヨン・イー・ウイリヤムス、デエームス・マクドナルド、ハリー・クウエルシエ等は會員であつた。哲學者として知られたるエルンスト・バックスの紹介に依つて民主同盟に加盟したモリスは急に社會主義の經濟的方面の思想の研究を始めた。

彼れは此れ迄は斯様な事項に就ては全く無智であつて、アダム・スミスを繙いた事もなければ、リカードは聞いた事すらなかつた。尤もミルに就てはミルがフリーエーの社會主義を攻撃した論文を読んだ事がある。之れに依つて社會主義は必然的の歸結である事を理解した。彼れはマルクスの資本論を研究して其の歴史的考察の部分は能く理解したが、其の純正學理は混亂して徒らに頭腦の苦痛を増すのみであると告白して居る。

民主同盟に加盟後のモリスの活躍は實に鮮かであつた。或は講演に、或は論說に、或は詩に或は彼れの好まざりし街頭演說にあらゆる手段方法をつくし同盟の發展の爲めに勞力を提供した。其れのみならず彼れは同盟の機關雜誌である「正

義」の第一年の缺損を填補し、其の尠からざる資金の調達に應じた。かくの如くにして彼れは社會の下層階級の人々に刺戟を與へ、彼等がより高き生活標準を要求するに至り、國民的福祉が増進するばかりでなく、更に全世界並びに人類の良心が新生するであらうと信じた。實にモリスが如何に當時の社會主義運動に熱烈であつたかは次句を見ても直ちに理解せらるる。

“Come, shoulder to shoulder ere the earth grows older!

The Cause spreads over land and sea;

Now the world shaketh and fear awaketh,

And joy at last for thee and me.”

かくして民主同盟は最初は會員として、其後執行委員として献身的なモリスを有し、他方に於ては勇敢なる熱辯家たるハインドマンを首領として昇天の勢で發達し、千八百八十四年には其の第四回の總會で運動の内容を鮮明にする主旨を以て民主同盟を「社會民主同盟」(Social Democratic Federation)と改めた。處が

此種の團體にありがちな事である會員間の不和衝突が千八百八十四年頃になると漸次濃厚になつて來た。其の軋轢の原因は甚しく複雑で茲に詳述する事はしないが、要するに社會主義の政策に對する各人の見解の差異に、個人的要素が附隨して居るのである。

元來該同盟を構成する會員は甚しき異分子を包容するもので、議會政策派、反議會政策派、急進的社會主義派、並びに無政府主義派等の種々の主義者が加盟して居るので、最初同盟の創設せられた當時は同盟其自身の發展のために皆が注意を集中したから内部の軋轢はないが、其れが或程度迄進捗し、何等かの具體的事項に關する政策を確立する事になると元來見解を同じくせざる集合團體であるから當然内部的不和が出來得るので、殊に同盟内の二大首領と目されて居つたハインドマンとモリスは其の思想に於ても其の見解に於ても顯著なる相違があるが爲め、常に軋轢が絶えなかつた。蓋しハインドマンは實際的のポリチシャンであつ

て同盟をして無産階級の議會に於ける代表機關たらしめんと志した。之れに反してモリスは社會主義者が議會に於て獨立的の代表機關を持つ事は未だ其の時機が早い。何んとなれば社會主義なるものが世人一般に了解されて居らないし、社會主義者も極めて少數である。従つてかゝる微細の勢力では到底大事業は出來ない。故に同盟のなすべき事は社會主義的教育である。即ち世人をして社會主義の本質を理解せしめ、之れを要求せしむるに努める事で一言にして之れを云へば社會主義者を作る事である。であるから同盟が政治運動に熱中するが如きは時間の空費である。宜しく同盟は何事もしないで唯社會主義の宣傳機關たらしめんと欲した。しかるにハインドマンは同盟を宣傳機關たると同時に政治機關たらしめんとする意思が固い處から、遂に兩者を中心とする兩派の衝突は其の極點に達し、千八百八十四年十二月二十八日數時間の激論の結果、ウイリヤム・モリスは其の共鳴者クレイン、バックス、エリナ・マルクス、シユー等と社會民主同盟を脱退

するに至つて尠からざる希望を以て其の將來の發展を期待されたる社會民主同盟も茲に分裂して一大頓挫を來した。

社會民主同盟から脱退したモリス並びに其他のものは其の翌年一月に『社會主義者同盟』(Socialist League)なるものを設立した。新團體創設後のモリスの努力は更に顯著であつた。彼れは「社會主義者同盟」の首唱者であり、指導者であり、且つ資金調達者であつた。彼れは千八百八十五年には同盟の機關として『福祉』(Commonweal)を發刊し、自ら其の主筆となり、其の雄筆を揮つて掲載した。

かの麗艶なるプロイズ・ローマンスと稱せらるる News from Nowhere や『ジョン・ボールの夢』A Dream of John Ball』等は該誌上に連載せられたものであるかくして猛烈なる運動を持続したるモリスの身邊は幾度となく危険なる状態に置かれた事もあつた。即ち千八百八十六年社會主義者同盟は社會民主同盟と連合し

てドッド町並にパテット街の尖角に於て言論自由擁護演説會を開催した。しかるに官憲の干渉壓迫する處となつて八人の檢束者を出した。

翌日此等のものは法廷に於て二ヶ月の體刑を宣告せられた時に傍聽席にあつた社會主義者は一聲に騒出した。モリスも其の場にあつたが公務執行を妨害し、且つ警官を打撲したとの理由で檢束された。之れに對してはモリスは其の事實を否定し直ちに放免せられた。此事件は極めて些細のものであつたが、之れが言論の自由擁護として社會に傳播して社會主義者同盟の存在は漸次多くの人々の認める所となつた。

更に同年には此れと類似の騒擾が二三あつてモリスはエヂウエヤ街に於て道路演説をなしたる理由で檢束せられ二日後若干の罰金を課せられ、續いて千八百八十六年二月八日トラフワルガー街に於ける失業者大會は遂に暴動と化し、幾多の俱樂部、商家を破壊し、交通を杜絶した。此事件は甚しく社會及政府の恐怖心を

刺戟し、政府はあらゆる會合を禁止した。其の結果はかの有名な千八百八十七年十一月十三日の「血の日曜」(Bloody Sunday)を顯出した。此日にはトラフワルガー・スクイヤーに於て愛蘭土に對する政府の政策反對の演説會が開催せらるる筈の處官憲の之れを禁止するや、單なる政治運動が變じて直ちに言論自由の示威運動となり總べての社會主義團體並に其他の急進的團體は一齊に該街に集合した。此の大勢を見て政府は無數の警官、刑事の外に軍隊迄動員して集れる群集を散亂させた。民衆と警官との衝突の爲めにアルフレド・リンネルと云ふ青年が殺された、モリスは此日六千人の社會主義者の示威行列に連つて該街に向つたが、彼れが到着した時は民衆が離散した後であつた。

あらゆる危険を排済し、絶大の努力をなして社會主義の宣傳に盡したモリスも社會主義者同盟内部の軋轢を緩和する事は出来なかつた。同盟は最初は能く結束して總べての事が恙なく進捗したが千八百八十七年頃から同盟内の無政府主義者

は漸次勢力を得、モリスの行動を壓迫する様になり、千八百八十九年には同盟内のアナキストは遂にモリスをして同盟の機關雜誌の主筆たる事をやめしめ、彼等の仲間であるフランク・キイツをして代らしめた。茲に於て同盟内の異分子を調和せんとするあらゆる手段も盡きたるが爲めモリスは千八百九十年同盟を脱退した。モリスを驅逐したる後の社會主義者同盟は其の不賢明なる方策と、無謀なる手段と個人的軋轢のために漸次衰頹を來し、遂に千八百九十二年解散の止むを得ざるに及んだ。一方同盟を退去したるモリス及其の周圍の少數なる友人はモリスの住宅の所在地たるハンマースミスに於て『ハンマースミス社會主義者協會』(Hammersmith Socialist Society)なる團體を組織し、モリス及其の友人が此の少數なる集會を通じて社會主義の宣傳に資した。爾來モリスは何等積極的な實際運動に參與せず、風景絶美なるケルムスコットの講堂に於て講演するに餘念なかつた。これが社會主義者としてのウィリヤム・モリスの活動の大略である。

### 三 モリスの社會主義思想

ギルド社會主義の明星たるコールはウィリヤム・モリスの社會主義を批評して次の如く云つてゐる。「モリスが藝術から社會主義に轉じたる理由は資本主義の配下には何等の藝術も發生する事が出来ないし、社會民衆の大部分は幸福を得る事が不可能である。……即ち彼れが明瞭に理解したる點は人々が産業制度に囚はれて居る間は純真なる藝術もなく、又社會民衆の良好なる生活はあり得なす……」(Cole, Self-Government in Industry, P. 120)

けれどもモリスの社會主義はグレンシャアの説くが如く彼れの人生觀の發露の結果で、決して産業史の經濟的分解の論理的歸結ではない。元來彼れは富の學問即ち金儲術の如何に就ては餘り趣味がなかつた。彼れが思ひを到したるは如何にして生活すべきかと云ふ術である。モリスは協同的社會の實現には總べての人々が富

の絶體的均等を必要として居るが、彼れは經濟的條件の調節は單なる手段で、目的其れ自身ではない。社會主義の一大目標は總べての男女を平等と相愛の基礎の上に置き、かくして總べてのものが充實せる且つ幸福なる生活をなす爲めに、出來る限りの自由を得る事である。巨利を得んが爲めの我利的努力や、彼等の壓迫や不幸に依つて同胞を桎梏に繋いだりする事や、如何なる種類の個人的特權の野心でも皆此等の動機は彼れの性格の許容する事の出來ざる處である。(Chasier,

William Morris and the Early Days of the Socialist Movement, P. 144)即ちモリスの社會主義運動の核心は社會民衆の物質的充足ではなく、獨立せる人間らしき生活をなす自由の獲得である。此點はギルド・ソシヤリズムと共鳴する點が多い。故に彼れの標準は經濟的事項ではない。彼れの主眼とする點は富の分配ではなく、氣力の分配である。彼れの見解に依ると人間の福祉は彼れが所持する富の分量に依つて計量せらるるものでなく、又彼れが生産する富の總額に依つて判定せ

らるものではない。尤もモリスは富の不均當なる分配は社會的弊害である事は社會主義の先覺者から學んだのであるが之れが全部ではない。今日の社會の缺陷は真正なる藝術の根源たる人間の勢力の自由なる活用を杜絶する點である。(Barns,

The Principles of Revolution, William Morris and Industry, pp. 71-72)

そこで斯くの如き奴隸的社會を改造して萬人が自由なる社會的雰圍氣の充滿する新社會的秩序を建設するには社會の民衆が、先づ現状の如何なるものであるかを了知し、之れに代はるべき理想的社會の創設に努力する勇氣と意思があれば成就し得べしとなし、之れが爲めには必要ならば強制的勢力の使用をも辭すべきでないともリスは主張してゐる。

故に彼れは社會民衆を教育して社會主義化する事の重大なるを感ずる點に於てはウエブ一派のフェビヤン協會と同意見であるが、しかし同協會の如く法令の制定に對しては信頼がなかつた。換言すれば、彼れは常に國家社會主義所謂生産の

總べての機關並びに分配を中央集權的統治の支配に置く事には反對で、寧ろ總べて斯くの如き條件の完全なる平等の下に各人の個性の可成的の自由行爲の出來得る生活を要求した。(H. Jackson, William Morris, pp. 53-54)

即ち彼れの理想的社會は、何等の外部的強壓力のなき自己表顯の自由勞働並びに餘暇の自由奉仕並びに享樂の自由を完全に包容するものである。彼れは曰く「人々はやがて暴壓と專制とを回避する唯一の方法は獨立社會の同盟を確立するにある事を理解するに至るであらう。即ち此の同盟は明確なる目的を以てされ、勞働の組織を助長し、貨物に對する眞實の需要を判定し、かくして空費を省略し、貨物の分配方法を組織し、個人の移動を自由にし、斯くの如くにしてたとひ彼等の自然的環境の事情は相互の生活並びに慣習の差異を來しても、其の共同的の利害關係を有する人々の親密なる交誼を得るにある。(William Morris, Signs of Change, p. 200) 此等の人間的の團體生活の理想化せられるものが彼れの美筆

に依つてニユース・フロム・ノーホエヤ中に抽出されてある事は世人の知る如くである。

思ふに社會主義者としてのウイリヤム・モリスの生涯はよしや其れがバクレーン、ラサール、マルクス等の如き波瀾多きものではなかつたけれども、彼れが七年間の社會主義運動は、よしや實際運動としては失敗したとするも其の精神的効果は決して尠かつたものではない。殊に彼れが藝術を通じて體得したる美の世界を創造せんとする意氣と思想は蓋し近代思想史上の偉觀である。要するに彼れの感化はたとひ其れが廣汎なる範圍でないとしても今日尚ほ存在してゐる。否今後と雖も恐らく永遠に消滅する事はあるまい。

## 第三章 労働問題の倫理的考察

### 一 労働問題の本質

近來世界の文明諸國を通じて労働問題が著しく高調せらるゝ様になつた事は世界周知の事實である。頃者我國に於ても急激に此の労働問題が頗る強調せられ、之れが朝野の論議の標的になりつゝある状態である。然からば労働問題とは何であるかと云ふに、一言にして之れを云はゞ労働者の不平に基く問題であると信ずる。即ち労働者が今日の資本主義的經濟組織に對して甚だ不満足である處から現今の労働不安が醸成せらるるのである。然らば更に進んで労働者の不平の原因は何んであるかとの質問に或人は答へて曰く、ソハ今日の労働者の賃銀は餘りに低廉で且つ労働時間が餘りに長過ぎるからであると。斯様に思惟する人々には労働

問題は結局胃の腑の問題で、要するに労働者の利己的な物質的欲望を満足せんとするにあるとなすのである。されば現今の労働不安の原因は決して斯くの如き單純のものではないのであつて、かくの如き見解の誤謬なるは論を待たない。蓋し現今の經濟組織の下に於て過去數十年間に労働者の賃銀が漸次増加し、其生活状態が漸次改善されつゝあるは事實である。而して若し労働問題なるものが單に胃の腑の問題であるならば労働不安なる現象の如きは今日の經濟組織の進展と共に減少すべきである。然るに事實は其れに反して今日の經濟組織の進展するにつれて之れが高調するを見るは労働問題は決して單に物質的方面からのみ觀察したゞけでは充分の根據を有して居らない。

抑も労働者の不平の眞因如何。吾人の觀察に依れば労働者が不平なる所以は彼等が現代の文明の恩澤に少しも均霑せざるのみならず、文明の進展に參與せざるが故である。即ち彼等の現状は全く社會的廢嫡の境遇に沈淪するもので、單に賃銀



奴隸として生存するに過ぎない。之れ彼等の頗る不満足とする處である。尤も斯くの如き状態にあつても労働者が未だ覺醒せざる内は其れで済んだのであるが、苟くも彼等が人間にして自己を省み、労働者として自己と同一の境遇にある他の労働者を思ひて階級我に目醒めたる時は彼等の周圍を圍繞する不合理的鐵鎖を切斷して自由の人として生産に従事したいと考ふるに至る事は當然の歸結である。故に今日の彼等のなす労働運動の目的を具體的に云へば彼等の要求する處は自由の人間にして日々の労働に對して創造的愉快と自然的歡喜とを感ぜんとする倫理的欲求である。換言すれば労働者は日々其のなす労働が單に資本家と云ふ特權階級のためにするのでなく、社會全體のために貢献する様になりたいと希望するものである。即ち彼等はラッセルの明確に指摘した如く過去の事情は如何なるもの存在したにしろ今日に於ては大多數のものが少數のために犠牲になる必要はないと認定するに至つた。曾つて労働の生産能率尠なく、教育の程度も低かり

し時代に於ては貴族的文明の或は避くべからざるものであつたに相違ない。故に其の當時に於ては多數の者が少數者の生活に貢献する必要があつたかも知れぬ。かくして少數者が世界の藝術的思想の共同財産を持續し以て文明的生活を可能ならしめたのであつた。然れども此の必要は今日に於ては過去の事實で、少くとも今や將に過去の事實たらんとしてゐる。従つて今日に於ては最早何人も正義、公平の要求を拒止すべきものでない、故に労働運動は此點に於ても道德的に非難する事が出来ないのである。

由是觀之現今の労働問題は倫理的並に正義的の本質を有するもので決して物質的のものでない。従つて吾人は労働者の賃銀を値上する事に依つて其の物質的的要求を満足せしむる事が出来るかも知れないが、之れに依つて現時の労働不安を除く去する事は出来ない。何んとなれば吾人の問題は饑餓に瀕する胃の腑の煩ひでなく、人類の靈魂の悶へであるからである。要之今日の労働運動は社會的廢殘の境

過にある労働者が自己の窮乏を訴へて資本家の同情や憐愍を乞はんとするのではない。彼等の要求する處は彼等が多年已むを得ず剝奪されたる當然の權利を回復し自由の人間として民主的狀態の下に貨物を生産し以て社會的貢獻をなさんとする倫理的欲求であると云つて差支へない。

(48)

## 二 經濟組織の革新と労働問題

惟ふに英國に其端緒を開いた産業革命は人類の歴史上に於ける剝奪の一大行爲であつた。尤も吾人は産業革命及其の齎せる工場生産が産業界の生産能率を著しく増進し、甚しく富の増加を助長したる事は認容するも、一方之れが労働者の財産並びに其の自由生産者としての獨立的地位を剝奪したるは争ふ餘地がない。蓋し産業革命以前に於ても幾多の社會的弊害の存在したるは吾人の等しく是認する處なるも、労働者は兎も角自由生産者にして獨立の地位にありしが故に、其の日

になす労働は他人の制肘を受けず、自己の意の儘にやつて居りしが爲め、自然其のなす仕事に興味と愉快を感じた。然るに一度大規模な工場生産の時代になると彼等は最早や生産に要する高價な種々の道具や設備を得る事が出来ない。其の結果忽ち賃銀労働者と變じ、昔日の如く、一個の獨立なる自由生産者でなく、資本家に雇はれて一定の賃銀を受取つて労働する寄食的境遇に陥落した。斯くして労働者は其の日になす労働の生産高に對して何等没交渉となりしが爲め、其の労働に對しては少しの創造的愉快も、自然的歡喜も感じない様になり、唯資本家の命ずる儘に就業するに及んだ。一方資本家は労働者に仕事を與へる事に依つて労働者の生存を維持する社會の大恩人なりと自惚れる様になり、遂に斯くの如き觀念の増長するにつれて労働者が人格を有する人たる事をも忘却し、労働者を器械、器具、原料、經營費等と共に生産費の一部を形成するもので、一種の貨物であると思ふに至つた。茲に於て労働者は單に獨立の生産者たる地位を失つたのみなら

(49)

ず、自由の人間としての權威は無くして、一個の貨物となり、人類の文明圏外に追放せられて全く社會的廢殘の境遇に沈んだのである。

然し乍ら労働者が若し馬や牛の如き動物であつたなら其れで満足して居たであらうが、苟くも人間である以上はかくの如き状態に甘んずるものではない。そこで既に述べた如く教育の普及、民主的思想の浸潤するにつれて彼等は團結の手段に依つて斯くの如き不合理的壓迫を嫌厭し、貨物的取扱いに反抗し、産業的專制管理を打破して、産業的狀態を民主化し、労働者を賃銀奴隸の境遇から解放して自由、獨立の生産者として社會的奉仕に資する處あらんとするのが今日の運動である。

### 三 労働條件は單なる手段である

而して労働者は此の一大目的を貫徹する手段階梯として或は労働賃銀の高上を要求し、或は労働時間の短縮を主張する。惟ふに現今の労働者の收得する賃銀が其の人間らしき生活をするに充分でない事は何人も拒む能はざる處にして、彼等は其の經濟的並に社會的弱者の地位にある結果稍もすると資本家の乗ずる處となつて過少なる賃銀に甘んじなければならぬのである。而して過少なる賃銀は唯に労働者の能率を減退するのみならず、種々の社會的弊害を誘致する恐あるは是處に喋々するを要しない。故に労働者が其の人間らしき生活をなすに必要なる賃銀を獲得する事は單に労働者自身の爲めに必要なるのみならず、人類の圓滿なる社會的發達をなす點に於て缺くべからざるとである。而して今日の經濟學は昔日の其と異なり、吾人人類が善良なる生活をなすに必要なる社會的餘剰の充分に存在してゐる事を證明してゐる。然るに大部分の資本家は労働者に對して容易に生活賃銀を渡さないものである。そこで労働者は之れを得んが爲めに屢同盟罷業の手段に出でる。故に一體労働者が労働條件改善の爲め同盟罷業の舉に出づる事は當然

の権利であつて、同盟罷業は其の本質に於て罪惡でもなく、又暴擧でもないので、労働者の所持する最も有力なる手段である。我國資本家の或者の如き同盟罷業をなすものを目して暴徒と見做し、官憲も亦動もすると之れを一揆の如きものとして取扱ふに至つては其愚劣さ加減は呆れざるを得ない。尤も我國労働者のなす同盟罷業は外國労働者の同盟罷業の如く正々堂々として秩序を亂さずしてやる場合は或は尠からんも、然しソハ我國の四圍の状態が労働者をして秩序的に同盟罷業をやる能はざるが故である。

斯くの如く労働者が平和的手段に依り生活賃銀を得られざる場合は同盟罷業に依つて之を得んとするは極めて當然の事である。のみならず吾人の見解に依れば労働者に生活賃銀を得さしては成立し得ざる産業ありとすれば、斯くの如き産業は寧ろツブした方が餘程社會の利益である。何んとなれば斯くの如き産業は産業界の寄生物であつて全く存在の價値なきものである。更に或人は云はん。然する

に於ては我國産業の全部の崩壊を誘致し、産業界は闇黒となるも測られないと。斯くの如きは之は一種の杞憂にして何等の合理的根據のないものである。

次に労働時間であるが、労働者が過長の時間労働するに於ては唯に身心の過勞を來らすばかりでなく、人間としての修養も訓練も全く出來ない。故に労働者が極力労働時間の短縮を謀らんとするは無理もない。之れを英國の實例に見るに十九世紀の初頭に於ては英國の労働時間は一日平均十四時間であつたが、其中頃になりて十二時間となり、今日に於ては九時間である。斯くの如く労働時間が短少されたるは全く労働運動の賜物で英國労働者は之れが爲めに甚大の犠牲を拂つてゐる。今試みに從來各國労働者の労働時間の平均を見るに最長が支那の十六時間、次ぎは露西亞の十五時間(戰前)、次ぎは我國の十二時間半である。而して世界中労働時間の最も短きは濠洲にして八時間であつて、濠洲の労働者は八時間働き、八時間眠る、八時間遊ぶを實驗しつゝ、あるは世人の知るが如くである。凡

と労働時間の過長なるに於ては、労働者は之れが爲めに過勞に陥り、之れが爲めに産業上尠からざる傷害の發生するは各國の傷害統計の明白に指示す處で、産業上の傷害の七割乃至九割は午後三時後に起ると云はれてゐる。即ち此の時分になると神身疲勞し、注意力減退し、筋肉の緊張力が鈍り自然に傷害が起る。尙労働時間の過長は労働者の生産率及幼兒の死亡率に多大の弊害を及ぼす事あるは論を俟たない。更に労働時間の過長なるに於ては労働者が必要となす修養の餘裕を得られない事、彼等が如何に智能の啓發を希望するも黎明より黄昏に至る迄勞働するに於ては其の餘裕も何もない事は當然の結果である。今回の國際聯盟中の労働規約に八時間労働の規定あるは實に適當なる事にて我國の如きも一時的の苦痛を忍んで此際斷然八時間労働を採用すべきである。

次に一日の勞働時間の短縮を要求する以外に労働者は一週一回の休養日を主張する。我國に於ける工場法の規定は月に二回の休養を附與すれども、斯くの如き

は極めて不充分にして一週少くとも一回の全休養日を與へ且つ其日に賃銀を差引く様の事をしては不可である。今日労働者以外の他階級者は日曜の休養日を獲得し、其の給料を減殺される事がない、然るに労働者に對して月に僅か二回の休養日を得させ、しかも其れに對して賃銀を與へざるが如きは極めて不公平の措置と云ふべきである。

斯の如く労働者は賃銀の増加或は労働時間の短縮に就ては多大の努力をなし居るも、單に其の手段に過ぎざるものにして、其の終局の目的は現今の如き産業界の獨斷的管理を打破し、民主的基礎の上に産業を建設し、賃銀奴隸としてでなく、自由、獨立の生産者として社會的生產に参加せんことを主張してゐる。

#### 四 資本家の時代錯誤的態度

然るに現今の資本家殊に我國大部分の資本家は斯の如き労働運動の精神を理解

せずして、労働問題は之れ單純なる胃の腑の問題なりと考へ、労働問題と救貧問題とをハキ違へて極めて姑息なる種々の温情主義的施設を以て労働問題を解決せんとするが如きは實に其の世界的思潮に通ぜざる事は労働者より遙か劣つてゐる。即ち我國に於ける労働不安の強調するにつれて我國の資本家は自己の工場に同盟罷業の如きものの勃興を甚しく恐れ、頻りに所謂労働者幸福増進設備をなし、或は労働者に住宅を給し、或は浴場を設け、或は娛樂場を置くなど苦心到らざるはない。吾人はかくの如き温情主義的設備は要するに一時的感情融和劑で、労働問題は之れを以ては解決が出来ないのみならず、時に依ると益々紛糾せしむる事がないでもないと思ふ。

我國資本家は一方に於て温情主義を以て労働者を瞞著せんとし、他方に於ては労働者の團結を極力阻止してゐる。實に斯くの如きは甚しく頑迷なる態度で國際聯盟中にも公然と労働者の團結權を認容せる今日に於て、我國資本家が依然として

時代錯誤的態度を保持し、労働者の團結を阻害するが如きは極めて危険なる方策にしてかくの如きは嘗に我國労働運動の健全なる發達を妨害するのみならず、我國の労働運動をして益渦亂状態に導くものである。

吾人は切に此際我國資本家の猛省を促さざるを得ない。彼等は速かに從來の固陋愚劣なる自殺的方策を撤回し、新時代に適當せる精神と態度に出づべきである。徒らに資本主義的横暴を恣にし、特に特權階級的強壓を労働者に加ふるが如きは則ち不賢明なる所爲である事を自覺せねばならない。

更に吾人の理解に苦しむは我國爲政者の労働問題に對する無方針である。尤も昔し、労働運動を目して暴舉と誤認し、之れに對して公然と強壓を加へたる時分と異なり、今日は稍其態度包容的になりたるが未だ舊習舊慣を脱却せず、徒らに資本家に追従、阿諛し、動もすると時代錯誤的主義、主張を平然と誇言するが如きは天下の物笑いである。而して現今に於ても爲政者は労働者が少しく大規模の

運動を開始せんとするや、忽ち其の過敏なる神経を慄はせ、茲に所謂彼等の「抜かぬ大刀」を抜き、労働者を抑壓せんとするは不可である。尙甚しきは労働問題に關する論議と雖も、彼等は之れに自由討究を許さず、動もすると安寧秩序、治安維持の美名の下に發賣禁止其他の強壓的鐵鎚を下すが如きは極めて愚劣なる方策である。

(58)

##### 五 民主的産業組織の樹立

凡そ現今の社會組織に於て壓迫は危険である。倫理的の衝動と社會的正義の觀念に基礎を置く労働運動の正邪は、須らく之れを社會の輿論に訴へるが正當である。尤も吾人は輿論が常に公平正確であるとは云はぬ。されど社會の大多數の集合的判定は社會を組織する各個人の判定よりも公平であると思ふ。民の聲は必ずしも神の聲ではないが、社會の輿論の判断に依つて決するは最も安全で且つ合理的

であると信ずる、而して社會の輿論を常に公平ならしめ、偏狭ならしめざらんが爲めには自由批評と討究を許さねばならない。實に自由批評及討究は社會的沈滞に對する一大刺戟劑である。吾人眞實に健全なる社會的生活に必要な方針を樹立せんと欲するならば自由批評及討究を根底とせる社會の大多數の判断の結果に依らねばならない。之れを否定するが如きは社會的自殺を意味するものである。

吾人は皆今日の社會組織に多大の缺陷のある事を認容する。而して吾人は今日の労働者が彼等の上に加へられたる不合理的壓迫を排擠して、民主的産業組織を樹立せんとする努力は其裡に偉大の社會的創造力の潜在せるを認め、彼等が自由獨立の地位に解放せらるる曉には單に現今よりもヨリヨキ經濟的秩序を得るのみならず、軍國主義者、並に官僚一派以外の民主的國民の満足し得べき社會を建設し得べしと固く信じて居るものである。

(59)

## 第四章 労働運動の目的と其の組織

(60)

### 一 労働運動目標の進化

資本主義的經濟組織の下に労働組合が起る事は進化必然的運命である事は茲に新に説明を要しない。そしてかゝる社會に資本家、労働者なる二大階級が對立して其の間に非常なる利害關係の衝突があり、常に争闘が絶へない事は吾人の眼前に展開されて居る掩ふべからざる事實である。此の階級戦は兩側に於て集團的機關を通じてなされる。労働者の結合的運動は労働組合を通じてなされて居る。けれども労働運動の目標に就ては各國共、同一ではない。其の國情に依り、或は其の國民性に依つて其の主張方針が、多少異つてゐると云ふ事は當然であるが、其労働組合運動の背後に横はる所の或點に於ては共通點が非常に多い。そこで労働組

合の運動が起つた其の當初にあつては、其の組合の方針は極めて單純であつて、職業を同する所の労働者が集合して彼等の自助的機關を作り、其の自助的機關を通じて、雇傭條件の改善、若しくは其の維持に努力したのである。詳言すれば労働者が職工組合と云ふ所の團結的勢力を利用して資本家に對抗し、彼等に有利なる労働條件を獲得して、それに依て彼等の社會に於ける所の、地位の向上を圖らんと試みたのである。従つて當時の職工組合の目標は、其の團結的運動に依つて労働者の經濟的生活を改善せんとしたものであつて、現在の資本主義經濟組織の處置に對しては何事も考へられてゐなかつたものである。即ち資本主義經濟組織を前提として、其の中で以て労働組合の機關を通じて労働者の經濟的生活の改善を圖らうとしたのであるから、其の手段方法は穩健であつて、同盟罷業サボタージュ或はボイコットの如き争闘手段は出來得る限に於て是を避け資本家に對しては、協調的の態度を執り、他方に於ては彼等自身が出來得る限りの掛金を消費して、

(61)



共済互助の方法を執つた。要するに労働組合は一面に於ては、労働者の自助的の保護機關であり他方に於ては彼等自身が他よりの干渉を受けずして彼等自身の始末を爲した一種の改善機關であつた。

其の實例は彼の一八五〇年に於て組織された英國の汽罐職工組合若くは今日尙存在してゐる米國の労働聯合會の如きは、皆此の種の目的の下に結合されたものである。斯の如き有様にして勞資協調主義を以て組合運動が出来たのであるが、然らば此の運動が過去に於て、如何なる程度の効果を擧げたかと尋ねて見るに、決してそれは全然効果があり得なかつたとは云ひ得られない。即ち労働組合と云ふものの、不斷の努力と奮闘とに依て、労働賃銀の増加に、又は労働時間の短縮に、兎に角労働者の經濟生活を多少なりとも改善した事は、彼等の齎した結果である。

然るに彼等は斯かる運動を數十年來持續し反覆したけれども、一方に於ては資

本主義的經濟組織が非常なる勢力を以て進展するに従つて、資本家の勢力も亦益々絶大になつた來た、換言すれば、資本家は彼等が持つてゐる所の富即ち資本の大所有者である所よりして、社會的潛勢力を増進し、従つて其の勢力は政治機關にまで進展し、政治機關を利用する事に成功し、或は政治家を賣收し、其の他公權を利用して労働組合運動を阻害せん事に努力したことは歴史上に明らかに説明されてゐる。

是を更に具體的に云へば、資本家は労働者が斯かる穩健なる勞資協調主義の團結を作る事すらも甚だ好まないのである。彼の一七九一年に於ける佛蘭西のシヤブリエ法、一七九九年に於ける英國の労働者の結合法、或は一八七九年に於ける獨逸の非社會主義法の如きは、すべて資本家が公權を利用して労働者の運動を壓迫する事に努めたものに他ならぬ。しかるに斯る方法を以つてしても、益々進展し増大し來る労働運動はとて阻害する事が出来ないからして、今度は凡らゆる

機會と凡らゆる口實を以て是等の運動を可成小い範圍に縮めやうと計つた事も亦否む事の出来ない事實である。

## 二 労働者の政治運動熱の勃興

斯うなつて見ると労働者の方でも勞資協調主義を以て即ち純然たる經濟的の運動に依つて、労働賃銀の増加とか或は、労働時間の短縮とかをしてみなければ、資本家が公權を利用し、法制を通じて、労働運動を壓迫する以上は、自分達も亦法制を通じて階級的に労働者の利益を増進する事を考へなければならぬと云ふ事になるのは、當然の次第である。斯かる立場に到達すると、今度は労働者は自分達の代表者を議會に送つて、其の代表者をして、議會に於て労働者階級に有利なる法律を作らしめ、以て彼等自身の利益を伸張しやうと云ふ様になつたのも亦當然の成行である。茲に於てか労働者が政治運動に参加する事になつた。尤も

其の手段の如きは國に依つて相違はあるが、労働者が政治運動に参加すると云ふ事は非常に流行して來た。彼の獨逸に於ける労働組合は、組合其のものが社會民主黨に依つて作られたと云ふ事から、政治運動と労働運動とは非常に聯結されて居る。更に英國を見ると、英國の方では其の最初の中には、労働者が政治運動に参加すると云ふ様な事は餘り主張されて居なかつたのであるが一九〇五年頃になつて、労働者が政治運動に参加しなければならぬ様な運命に立到つた。それは世人の知るタッフ・ペール判決である。其の内容は茲に説明する迄もなく、世人が理解して居る通りであるが、斯様な判決に依つて、労働者の幹部のすべての行爲は組合自身が責任を負はなければならぬと云ふ事と今一つは同盟罷業をした場合には、罷業監視をすると云ふのは不法であると云ふ判決をされた。茲に於てか労働者は斯様な亂暴なる判決を覆す爲めに、労働者の代表を議會に送らなければならぬと考へた。それで一九〇八年の總選舉には労働者の代表者が四十一人も當選し

た。そこで第一にタッフ・ペール判決を覆す爲めに、職業争議法と云ふ法律を通  
過せしめて前の判決を撤回したのである。それは英國に於ける労働者の政治運  
動の門出であるが、更に米國に於てはどうかと云へば、米國に於いても現在同國  
の労働運動の中堅になつてゐる所の、労働聯合會の以前に存在したナイッ・オブ・  
レバーと云ふのがあつた。之れは餘程盛んに政治運動に参加して、此の方面か  
ら改革しやうとしたのであるが、遂に失敗に終つて崩壊して仕舞つた。そこで米  
國労働聯合會は暫く政治運動に参加しなかつたのである。寧ろ米國に於ては労働  
者が政治運動に参加する事は労働運動を阻害するものであると云ふ主張の下に、  
政治運動には一切關係しなかつたのである。それが最近に於ては労働者が政治的  
方面に勢力を伸張しやうと努めて居る事は世人の知る通である。

### 三 議會政策の不信用

斯う云ふ具合にして、労働者が彼等自身の階級的利益を伸張する爲めに政治運  
動に参加したのであるが、其の結果如何なる効果があつたかと言へば、さう大し  
た効果はなかつた。英國に於ては非常なる期待と、甚大なる熱誠とを以て政治運動  
に参加した、又佛蘭西の労働者も最初に於ては政治運動に参加したが、それをや  
つて見ると政治運動を通じての、労働者の利益の伸張と云ふ事はあまり効果があ  
るものではないと云ふ事が事實の上に證明されたのである。英國に於ては四十一  
人の労働黨員が代議士にあるけれども、それが一の職業争議法を拵えた外に一體  
何を爲したかと云ふ事になると、殆んど是ぞと云ふ仕事をして居ない。所謂労働  
者に有利なる法制は拵えた、工場法の改正であるとか、或は職業争議法であるとか、  
失業保険であるとか、或は職業紹介法であるとか、最低賃銀法であるとか、  
種々なる法律を拵えたけれども、要するに是等の法律の効果は何であるかと云へ  
ば、それは單に資本家との一時的の妥協に過ぎない。決してそれが根本の點に觸

れてゐない事を知つたのである。そこで各國の労働者は議會政策即ち政治を通じて労働者の解放を圖る事は寧ろ弊害多くして効果がない事を悟つたのは無理からぬ事であると思ふのである。殊に労働者の代表として出る所の人は、一度議政壇上に立つと、自分は労働者である、或は労働者の代表である事を忘れて、資本家と提携して、反對に労働者を壓迫する様になる傾向がある。佛蘭西に於ては例のミルランの如き或はブリアンの如き人々は、一度議會に出ると、労働者の同盟罷業とか乃至はそうした行動を壓迫する様な事を非常に行つたものである。そこで佛蘭西に於ける労働者は、政治運動を通じて、労働者の解放を圖るのは、非常に劣悪な事であると悟つた結果、彼のサンヂカリスムの運動となつて現れたのである。しかすると労働者は、直接的經濟運動、或は政治運動に参加しないで、矢張り労働組合運動を通じて、彼等の解放を圖る方が最も適切であると考えて來た。かく考ふると同時に、一方に於ては労働者中に社會主義的思想が段々と浸潤し

て來たのである。此の社會主義的思想の浸潤が、政治に參與する事よりも、經濟的直接行動と云ふ事に一つの方針を與へたのである。換言すれば今迄の労働組合運動があまりに効果がなかつたのは、一體何故であつたらうかと云ふ事を熟慮反省せしむる機會を與へ、更に將來に於ける方針を與へたものは社會主義思想の浸潤の結果であるとも云ひ得らる。かくなれば、労働者は彼等のやつてゐる労働組合運動と云はるもの前提が、從來は誤つてゐたこと、資本主義經濟組織を其の儘にして置いて、其の中で労働者と資本家が協調して、賃銀の増加や、労働時間の短縮を圖ると云ふ事に依つては決して労働者階級は解放されるものではない事に氣が附いたのである。

換言すれば労働組合と云ふものの機關が、單に労働者の自我的保護機關であつたけれども、之はいけない、不合理なる資本主義其のものに對して、之れを改造して新にプロレタリアの社會組織を造り、以て理想的の新社會組織を建設する事

に於て、始めて労働者の解放運動が成就し得ると云ふ事を考へるやうになつたのである。茲に於てか各國の労働組合運動が、全く其の方針を變へて來たのである。即ち從來の如く、労働條件の改善をした事から、一歩進んで今日の資本主義的經濟組織の改造、換言すれば労働條件の改善と云ふ事は資本主義的經濟組織の根本的改造の手段方法であつて、今日の如き資本家と労働者との關係を打破して生産の管理權并に統制權を資本家の手から、労働者の手に轉じると云ふ事に依つてのみ、彼等の運動の終結を告ぐるものである事を考へる様になつた。是が即ち從來の労働組合の自衛的保護機關と云ふものの主義に對して、之れを新労働組合主義と呼ばれてゐる。

此の新労働組合主義が、具體的に且つ最も明瞭に顯れたのは、彼の佛蘭西のサンデカリズム、英國のギルド・ソシアリズム、或はインダストリアル、ユニオンズ米國に於ける I.W.W. の運動に依つてである。斯うなつて來ると從來の勞

働者は、労働組合を造る場合に於ても、前提が違ひ、又其の方針が全く違つて來た即ち目標が違つて來たのである。今迄の労働組合の目標は、單に労働條件の改善に依つて社會的并に經濟的の向上と云ふ事にあつたのだが、今度は今日の生産組織を根本的に改造すると云ふ所に目を附けるやうに一步先に進歩した譯である。斯の如く目標が變つた。それならば一體如何なる所に注意すべき點があるかと云へば、之れは從來の資本主義的經濟組織を其の儘として置いてはいけない、換言すれば今日のやうな労働者の賃銀奴隸からの解放が第一である。即ち其の労働運動の目標の第一歩としては賃銀制度の打破、或は進んで資本家階級の打破に依つての、労働者の生産管理權の獲得と云ふ事になつて來たのである。是は今日我々の目前に現はれて居る歐米各國の労働運動であるから、私が此處で管々しく證明する必要はないと思ふ。

#### 四 労働運動の構成的推移(職業別組合より産業別組合へ)

(72)

斯様な具合に目標が變つて來た、それならば斯の如き新しき目的を持つた労働運動の内部的構成は如何様になつて來たかと云ふ事を説明しなければならなくなつて來た。元來労働組合の内部的構成は、労働組合の目標の進展と共に推移してゐるかどうか。即ち労働組合運動が、單に労働條件の維持及改善と云ふ様なもののみであつた場合に於ては、職業を同うする者が相集つて、所謂同職組合即ちクラフト・ユニオンの如きものを組織して、社會的經濟的の改善を圖つたのである。是は無理もない事で、職業を同うする所のものは、利害關係が最も密接で、團結と云ふものの統一を取り易い。故に斯の如きものに依つて労働條件を改善し、而して相互の生活状態の向上を圖つたのである。所が斯様なものが漸次繼續してゐる内に同職組合は、從來主として熟練職工に依つて造られたのであるが、此

の熟練職工なるものは、同じ職工の中に於ても不熟練職工よりも教育の程度も高いし、又生活の安全と云ふものもあるので、熟練職工は一番先に社會の不合理的壓迫に目覺め、是等熟練職工が集合して、職業別の組合を造つて彼等の生活状態を改善する事となつたのは、進化の必然の徑路である、所が斯様なことをしてゐる中に、熟練職工が構成した労働組合それ自身が非常に保守的になつて來た。即ち熟練職工組合なるものを造つて、其の組合に一の既得權の如きものが出來た。そうなれば今迄の熟練職工の労働組合即ち職業別の組合は、其方針も主張も、又其の政策も極めて保守的となり排他的となつたのである。そして動もすれば非常に高い入會金を課して他の労働者の入會する事を妨げ、或は其の會に入つてゐない他の不熟練職工を壓迫せんとする如き傾向を示す様になつたのである。しかるに労働組合が漸次進展するに従つて熟練労働者の團體のみでは、どうする事も出來ない様な状態になつた。それは英國に例を取つて見るならば、一八八九年の船

(73)

渠ストライキであつて全く不熟練職工のストライキが大成功であつた事である。又一九一一年に水夫及び火夫の不熟練職工のストライキがあつたが是れも亦成功であつた。其の結果運搬労働者と云ふ組合を造る事になつたのである。そこで英國に於ては最早不熟練職工を眼中に於かないと云ふわけには行かなくなつた。彼等熟練職工は従來技術的優秀と云ふ特權を持つてゐたのであるが、其の特權は段々に根據が薄弱になる状態を呈した。其の理由は、新しい機械の發明、或は生産方法の改善或は材料の代用と云ふ如き事が分業の進展に依つて行はれ、今度は熟練職工でなければなされなかつたものも、今度は新しき機械の發明、生産方法の改善に依つて、不熟練職工にても之れを爲し得る様になつたのである。かくなれば、今迄特權を有して居た熟練職工は其の考を直さなくてはならない様な破目になつた。更に熟練職工の造つてゐるクラフト・ユニオンが進展するに連れて、組合員間の争議が非常に多くなつて來た。それが所謂限界争議となつて、今日の職業

別の組合の進展を一層複雑とし且つ困難ならしめた所以の一である。限界争議と云ふのは、組合と組合との限界的争議である、例へば大工組合、左官組合、或は造船工の組合が出来てゐるとすれば……大工と左官と云ふ様な判然と區別のつく組合間には争議は起らないかも知れないが、電氣の使用が盛となり、或は新なる機械などが採用せられる場合、夫かどちらの組合の権限に入るのか分らない仕事が出るのである。そこで相互の組合は皆限界的の權利を自分の方に取らうと努めるのは當然である。自己の組合に於てそれを取らない場合は、失業者などのあつた時に、それに業務を與へる事の出来ない様な事がある。新なる職業に對してはそれに類似の組合が相互に權利を主張する、其の主張する事に依つて、組合相互に争議が起る、之には地方的限界争議と職業的限界争議との二種類がある。地方的限界争議とは、地方に依つていろ／＼な支部がある、支部は各々限界範圍を以てゐる所へ茲に新らしき支部が生じた場合に、其の支部の限界は一體何處にある

かと云ふ様な地理的限界争議が起る。又他方に於ては職業的の限界争議が出て来る。一例を挙げれば造船業に於て新しい機械或は種々の材料の代用と云ふ如きものが生じて來ると、それは造船工の仕事か、其れとも電気工の仕事か、殆んどどちらへ置いて善いか解らなくなる、そこで職業的の限界争議が行はれるのである。此の限界争議は職業別組合の進展を最も阻害するもので、ゴンパースの如きは米國労働聯合會の大會毎に斯う云つて居る。

『米國の労働聯合會がもし崩壊すると云ふ事があれば、それは外部の壓迫ではなくて、必ず限界争議に依つてつぶれるのである』と、斯の如く、此の限界争議は同職組合の重大な問題になつてゐる。而して此限界争議を解決する方法は種々あるが、普通の場合に於ては、甲の組合から幾人、乙の組合から幾人と云ふ風に同数の代表者を出して決定する事になるのであるが、其の場合に於ても普通最後の判定は資本家に委せるのである。其の最後の判定官たる資本家としては、廉い賃銀を主張する組合に仕事を委すことになるのは當然で、かうなれば資本家の爲めに労働組合が利用される事になる、普通は此の方法を採るのであるが最近是は労働組合に於て好まぬ處となり、組合と組合とが聯合して限界的解決をしようとして居る。

米國に於ける労働聯合會内の同職組合間の争議は、米國労働聯合會自身の一つの重要な仕事となつてゐるが、フェデレーションだけでは束縛力が少ない、米國労働聯合會の決定した事は道德上の束縛力はあるけれども、強制する所の権限はない。斯くして職業別組合は、生産組織が複雑になり、分業の發達や、或は機械の發明などが興るに連れて、内部的に崩壊の機運に逢着してゐるのである。更に職業別組合が、外部から崩壊的の機運に遭遇してゐる一つの原因は、即ち從來の職工組合の目標と、新しい労働組合の目標が全く變つて來た。從來の職工組合の目標は單に労働條件の改善と云ふ事であつた。それはそれでよいけれども新しい



労働組合の方針ではない、資本主義的経済組織を改造して、労働者自身が自由独立の生産者としての権利を主張する所のものに爲さうとするものである。換言すれば職業別組合は資本家に對抗する所の力としては頗る薄弱である、之はどうしても團結の勢力に依つてやらなくてはならぬ。團結力が強くなれば其の目標も變つて来る、そこで労働組合論者は職業別組合はいけない、どうしても産業別組合にしなければならぬと主張するのである、然らば産業別組合とは如何なるものか云へば一つの産業を中心として組合を作るのである。鑛山なれば鑛山、造船業ならば造船業に従事してゐる所のものは、たとひそれが大工であつても、左官であつても皆造船業組合と云ふ一つの組合に入る。又石炭を採掘する者でも、運搬するものでも、鑛山に働いてゐる労働者は、職業の如何を問はず、將又熟練不熟練を問はず、一つの鑛山労働者の組合を作る。斯くすれば團結的勢力も強くなり、資本家に對しても非常に偉大なる勢力を有する事になるから、斯くしなければならぬ

と主張されたのである。従つて新しい目標を持つた労働組合はすべて職業別組合を捨て、産業別組合にしたのである。

例を挙げれば英國に於ける産業別組合として有名なるものは、全國鐵道従業員組合であり、獨逸に於ては運搬労働者組合、佛蘭西に於ては労働組合聯合で之れが即ち私の言ふインダストリアル・ユニオンである。其産業別組合を主張する論者は職業別組合の特權擁護、排他的の方面を攻撃して居る。トラウトマンは何故ストライキが失敗に歸するかと言へば、それは職業別組合の排他的政策である。職業別組合は従來は五百弗とか一千弗と云ふ高價な入會金を取る爲め組合へ入會せんとする意志を持つてゐても仲々に加はれない。そこで組合の人々がストライキをする場合に於ては自然に罷業破りが出来る事になるのは當然であると言つて職業別組合を攻撃してゐる。ラガデルの如きは職業別組合の唯物的な所を攻撃して、一體同職組合なるものは、資本家に附與された所の勞銀を以て成立してゐる組合であ

る、一方に於ては資本主義たるものを前提とした所のものであり、他方に於ては労働者が出来るだけの掛金を以て、其の掛金を以て彼等の生活状態を改善しやうとして居るが、かゝる澤山な金を擁してどうしやうと云ふのか、其の夥大の金を有つて居ると云ふ事が、労働組合の進歩したものだと言ふが、然し金の所有の大小多寡が組合の優劣を決定するものならば彼等の敵である資本家は實に羨望すべきものでなければならぬと攻撃してゐる。のみならず産業別組合を主張する人々は、更に進んで産業別組合は、労働者が今日の資本主義經濟組織を改造して、生産の管理權を獲得する場合に於ては、職業別組合はとも存在しない。故に産業別組合に改めなければならぬ事を主張して居る。嘗に職業別組合を産業別組合に進めなければならぬばかりでなく、新しい目標を持つた労働組合主義者は、從來造つた産業別組合と、相互の行動を密接ならしめなければならぬと主張して居る。産業別組合があつても、それが個々別々に獨立して、例へば運搬労働者組合

があり、鑛山労働者組合があり、鐵道従業員組合があつても、是等が各自に如何に産業別組合を造つて居ても、其の間に何等の連絡關係なき場合に於ては、矢張労働者の運動を阻害する點が非常に多い、故に各自の組合を密接ならしめる爲には、聯合から更に進んで合同をしなければならぬと云ふ事を主張して居る。

##### 五 労働運動の合同化

此の點に於ては英國の労働者は、獨逸の労働者に到底及ばぬ、元來獨逸の労働者組合の發達は獨逸に於ける社會民主黨が造つたのであるが、其の構成された當時から非常に綿密なる注意を以て、労働組合員の増加を謀つたが、組合の數を増加しないで以て團結の勢力を強からしめやうとした所に、賢明な遣方をしてゐる、故に獨逸に於ては労働組合の會員が殖えるに従つて、其の組合の數は減少して居る、然るに英國に於てはそれと反對に労働組合の數が漸次殖えて居ると云ふ

事は餘り慶賀すべき現象ではない。實例を以て示せば獨逸に於ては一八九九年即ち労働組合運動の當初に於いては組合の數は五十七であつて、組合員の數は四十九萬三千七百四十二人である。而して最近の千九百十三年即ち戦争始めには組合員の數二百五十四萬八千七百六十三人に増加してゐるが、組合の數は却つて五十七から四十七に減少して居る。丁度十減少して居る、然るに英國の方に於ては、一八九九年に於ける組合員の數は百八十六萬九百十三人で、組合の數は獨逸の五十七に對して千三十の多きに上つて居る。それが一九一三には、會員數三百九十八萬七千百十五人に増加したが、組合の數が、千百三十五に殖えてゐる。尤も是れは最近に於ては減少して一九一六年の統計に依ると千百三十五の組合から千百十五にまで減少してゐる。然し是れを五十に満たない獨逸の労働團體の結束に比較すれば同日の談ではない。茲に於てか英國の労働組合の論者は、労働者は小組合を多く造ることなく大なるものに纏めなくてはならぬ、一から十迄合同して團

體的に擴大しなければならぬ事を盛んに主張して居る。而して最近に於ての、労働運動の調子はすべて組合の數を殖すことではなくて、力強い大なる組合を組織して資本家に、對抗しやうと云ふので、合同と云ふ氣運に向つて進んでゐる。それが遂にかの運搬労働者、鑛山労働者、並に鐵道従業員組合と云ふ如き大なる産業別組合が合同して三角同盟を組織したのである。而して其三角同盟を構成したと云ふ事が、英國に於ける最近の合同的氣運の一片を窺ふに足るのである。英國の労働運動は斯様な具合に、澤山な労働團體があつて、相互の間に衝突はあるけれども、労働運動と云ふものゝ大きな潮流を見ると其の潮流は一つである。換言すれば英國の労働運動は同志打が非常に少ない。是は吾人が英國の労働運動を見る場合に於て最も注意しなければならぬ點である。それは英國に於ける労働團體は、其の數に於て千以上もあるけれども、其千以上の各團體が資本家に對抗する場合に於ては、各自が同志打をしないで、同じ潮流の下に進んで居る所に非常に

強味がある。是を獨逸に較べると、獨逸の労働團體は四十七位にしか過ぎない、併し乍ら其四十七の團體の勢力以外に、是と對抗する團體が幾多もある。即ち基督教的労働組合とか個人主義的の労働組合と云ふ如きものがあつて、それが會員を十萬も有してゐる。換言すれば四十七の團體以外に平和労働組合とか或は獨立労働組合と稱する組合があつて、此の四十七團體に對抗して、矢張労働運動をしてゐる。而して是等の大流が常に衝突し喧嘩をする爲めに獨逸の労働運動の進展を少なからず阻害して居る。更に是を米國の状態に見ると、米國に於ては、殆んど三百萬人の會員を有する米國労働聯合會が存在してゐるが、此の外に I.W.W. と云ふものがあつて、I.W.W. の方では、米國労働聯合會は労働者の敵であると攻撃し、又米國労働聯合會側では I.W.W. は米國の労働運動の有効なる進展を阻害する所の獅子身中の蟲であると攻撃し、相互に喧嘩をしてゐる。其の結果は誰れが利益になるかと云へば、皆資本家の利益となるのである。要するに米國の労働者

は資本家が労働聯合會をして I.W.W. を壓迫し、而してそれが終つたならば今度は米國労働聯合會を壓迫しやうとして居る資本家の心中を知らないのである。此の米國の労働運動が二重運動になつてゐる事は、大變に労働者の勢力を薄弱ならしめるものである。最近労働運動の指導者として著名なフォスターが『鋼鐵同盟罷業と其の教訓』と云ふ著述をして居るが、其の最後に持つて行つて、米國の労働運動は英國のそれと比較して、甚だしく劣悪である、労働團體が二つあつて、同志打をして居るのはいけない、之は英國の様に、労働者の運動の潮流を一つにして、足並揃へて進んで行かなければならぬと主張して居るが、私は正當な見解だと思ふ。斯様な具合になつて、労働運動は其の目標の變るに従つて、労働組合の内部の構成が變つて來た。從來は自衛的保護機關であつたから、其の内部の構成も職業別であつたけれども、今度は資本家に對抗して、彼等自身の、新しい生産組織を建設せんとする所の機關となるに従つて、内部の結束の基礎を鞏固にす

る爲めに、産業別組合にしなければならぬと云ふ状態に、段々と主張が變り、而かもそれが世界の労働運動の大勢の様に私は思ふのである。

(86)

## 第五章 労働運動の建設的方面

*"Go on living while you may, striving, with whatsoever Pain and labour needs must be, to build up little by little the new day of fellowship, and rest, and happiness."—William Morris"*

### 一 資本主義的勢力はまだ尙甚大である

社會改造の原理原則は可なりに多種多様である。そして現在の虚偽と弊毒を以て充滿する社會を改造する爲めに此等の原理を奉體する主張者は各自熱心に宣傳してゐる。而し改造運動の中樞的勢力は何んと云つても労働者の其れである。即ち現在の不合理極まる資本主義的經濟組織に於て最も其の害毒と抑壓を痛感せる労働者が團結の威力を以て資本家に對抗し、一刻も早く斯の如き搾取階級を絶滅して合理的なる新社會の建設をなさんとする努力は確に新文化創造の基調である

(87)

と云つて差支へない。而し労働運動は輒近其の實力を増進したとは云へ、之を今日の絶大なる資本主義的勢力に比較したら未だ可なりの懸隔がある。一體資本主義なるものはかの安價な社會改造家の考ふるが如く二三回の演說會や祈禱や數度の同盟罷業や若しくは革命歌の高唱のみに依つて崩壊するものではない。實に數世紀に亙つて長足の發達を遂げた資本主義の魔手は強大なる遂行力と欺惑力とを握つて居り、其の潜在的勢力は牢乎として抜くべからざるものがある。即ちかの封建制度の解體に伴ふて擡頭せる資本家階級は其の不斷の偽瞞的手段に依つて彼等の行爲を擁護し、其の進捗を企圖する事が社會的福祉を増進するものであるといふ偽的宣傳は可なりの効果を顯はして以て彼等は其冷酷なる搾取的行爲を恣にして居つた。しかしながらかくの如き魔酔劑は永くは持續しなかつたのであつて、之に對する反對思潮及運動は到る處に蜂起した。そしてブルジョワ階級は社會秩序保全の美名のもとに此等一切の反抗的思想及運動を強壓絶滅せんとした

が、之れが却つて此等のものの急激なる進展を援助した。そこで今度は種々なる欺瞞的方法に依つて此等の反抗的熱度の緩和劑を講ずる事にした。かの勞資協調なるものはかくの如き思想の糖衣政策に外ならない。しかし資本主義が此の偽惑手段も効果を奏しないと考へる瀬戸際には漸次其の残忍なる本體を暴露してあらゆる苦肉策を以て其の存續支持を謀る様になる。今日發達したる資本主義的社會に於ける階級闘争の進化は之れに漸次近づきつゝあるを示してゐる。

## 二 労働者同志打の愚

資本主義配下に於て賃銀奴隸の境遇にある労働者は金力もなく、権力もない。只彼等の所持する全部は團結の威力のみである。故に労働者が現在の奴隸的地位から解放せらるる爲めには團結の一事を置いて他に方法がない。しかも未だ絶大なる實際的勢力を有する資本家階級に對抗して隷屬的境遇から脱却して自由獨立

の生産者たるには甚大の努力が必要であり、更に今日の缺陷多き不合理なる組織を改造して萬人に住み心地好き新社會的秩序確立の大業は賢明なる識見と鞏固なる組織力を要求する。しかるに労働者の團結の現下の狀況は未だ其の範圍に於ても、其組織に於ても完全であるとは云へない。即ち労働組合加盟者數は之を労働階級全體に比するに極めて少數であるのみならず、労働組合其自身の團結的基礎が甚しく薄弱である。尤も最近に於ては労働組合運動の進展するにつれて組合合同的機運は漸次成熟し來た様であるが其の完成はまだ遠い、殊に我國昨今の事態を見るに先年折角團結の必要に基いて出來た労働同盟會が最近分裂した。そしてこの労働組合の合同的機關が龜裂を生じた原因は幾多あるであらうが、吾人の傳聞する所に依ると各労働組合の思想的方針の相違は其重要なるものであると云はれて居るが、而し此事は合同以前にも理解せられてをつた事と思はれるし、又よしや思想的背景は同盟加入の労働組合間に相違があつたとしても其間全く相容れぬ

ものではない様に思はれる。即ち同盟にはかの普通選舉や現時の代議士に倚賴して以て労働運動の目的が到達せられるであらうと考へる者や若しくは雇傭條件の改善のみが労働運動の目標であると誤信して居る労働組合はなかつた筈である。換言すれば労働同盟會に加入した労働組合は何れも今日の資本主義的經濟組織の本質的の弊毒と其根本的の改造の必要は皆是認したと信ずる。そして若し此思想的一點に共通する處があれば其の手段方法の差異は決して労働同盟會の分裂を來すべきものではない。戦争は開始せられたばかりである。共同の敵は本能寺にあるのである。其れを攻め落す手段方法は異つても攻落す敵は一である。敵が未だ健在して居る内に仲間同志が龜裂を生ずれば、其れが利益の均霑者にとつては敵である事を忘却してならない。須らく團結力の精神に依つて組織せられたる労働組合は矢張り同一の主旨に基いて労働組合間の團結を謀るべき者ではあるまいか。元來我國民の團結的精神の乏しい事は國民的弱點である。之れは永らくの間

涵養馴致せられたる封建時代の倚賴的島國的根性の遺物であつて、由來我々は甚しく寛容的襟度が缺けて居る。従つて永續的な組織的行動をする場合に當つて常に此の弱點が邪魔をする。かゝる排他的根性は萬難を除去して大同團結を必要とする労働運動には大禁物である。

(92)

### 三 智識的指導者問題

更に近頃一見奇異なる労働運動上に於ける現象は労働者間に於ける智識階級より出でたる労働運動指導者の排斥である。尤も之れは今日に於て萌したものでなく、随分以前よりあつた現象である。そしてこの事は一般労働者が自然に其の智識階級指導者を嫌厭するに至りたる場合に、一部労働者出身の指導者が自己の或私利的目的を到達する手段として智識階級指導者の排斥を一般労働者間に宣傳する場合と今一つは労働運動圏外の第三者がこれを労働者に煽動する場合とある。一

體労働運動に於て智識階級が反感を持たれる所以は相當の根據がある。之れを過去の事實に徴すれば智識階級のものとは概して特權階級の走狗となるものが多いのであつて、彼等は其の社會的經濟的條件が全く労働者と類似なるにも係はらず、なまがぢりの智識と傳統的宿命的の人生哲學に囚はれて只浮草の如く支配者階級の爲めに驅使せられて、意識的に若くは無意識的に労働者の運動を阻害した事が決して尠くない。又智識階級から出でて労働運動の指導者になつたものも眞實に労働者の心理と要求とを顧慮しないで、且つは労働運動の精神をも理解しないで、唯だ賣名的若しくは營利的動機と野心で之れをなし、其の結果は幾回となく労働者の期待を裏切るものがある。其れが積り積つて遂に一般の労働者は智識階級者は到底信賴するに足らないもので、彼等の運動を妨害するものであると云ふ結論を抱かしむるに到つたのである。斯く考ふるは元來卒直なる労働者の事であるから尤の點で、罪は皆かくの加き我利的労働ブローカーの災する處であ

(93)



る。しかしながら從來智識階級の労働運動者の或者に、斯の如き者が輩出したとて、之れを以て直ちに總べての智識階級者は信頼すべきものでないとの反感は餘りに性急なる態度ではあるまいか、實に何れの國の労働運動史を見ても智識階級出身者にして眞に労働者の心理を理解し、誠心誠意一身の總べてを犠牲にして労働運動の進展の爲めに貢献した者が決して尠くないのを見る。之れは單に労働運動のみに限らない。總べての社會運動に之れを見る事が出来る。此等の者は不合理なる社會組織の下に懊惱する大多數の民衆の解放のため確固たる信念と熱情を以てあらゆる壓迫と困憊とを排擠して言論に或は行爲に民衆の自由と幸福を得んと努力した事は類例を擧げる必要がない、とは云へ之れが爲めに吾人は我利的なる智識階級労働ブローカーを辯護する意志は毛頭ない。否此等の徒輩は獅子身中の蟲であり、階級的裏切者であるから其の罪は死に値する。更に一面から觀察して見ると労働運動から智識階級者を除去した處が之れが爲めに私利的なるブロー

カーが全くなくなる保證はない。何んとなれば労働者出身の労働運動者でかくの如き階級的自殺者がないでもない。要は労働運動者たるには眞實に労働者の要求と心理を理解し、之れに基く純正なる運動をなすものであれば其れが智識階級者であると労働者であるとを問はないのである。只智識階級者の細心の注意を要する點は労働運動をなすに當つて自己が少しばかりの智識あるを鼻にかけて指導者ぶりを發揮したり、或は労働者は自己の命令に服従すべきものであるが如き態度と精神は最も唾棄すべきもので斯の如きインテリゲンチヤは寧ろ最初から労働運動の如きものに關係しない方が萬々よいのである。要するに労働運動上に於ける智識階級者の職掌は労働者の解放と新社會の建設に對して自己の所有する智能を労働者の要求する所へ提供して、以て新文化の建設に資する事ではあるまいか。労働者もかくの如き誠意を吐露し眞面目に彼等の運動に参加せんとするものに對しては之れを包容する襟度を示し之れに依つて彼等の比較的缺陷である智識

的方面を充足し共に提携して、其の共同の目標に向つて猛進すべきものではあるまいか。

(96)

#### 四 新社會の建設の使命

労働運動が其の量に於ても其の質に於ても漸次に強大なるにつれて資本家階級は次第に恐怖と威嚇とを感じ、其の結果は労働者に對し幾多の妥協案や一時のがれの鼻樂案を提供するに至る。かの戦後の英國に於いてホイトレイ・レポートに基づける産業協議會の如きものは其顯著なる實例である。之れは單に一例に過ぎないが今後續々と諸方面から種々の事項に關してかくの如きものが顯はれると思はれる。故に労働者は其の運動を進捗させるにつれて一方に於ては現在の如く彼等を奴隸的境遇におく資本主義の絶滅に努力すると共に他方に於てはプロレタリア社會の具體的組織を成案して行く事をも考慮する必要がある。尤も資本主義

の崩壊せざる以前に於て微細なる新社會の成案は到底出來得るものでなく、又其の必要がない。しかし今日の虚偽と搾取とに依つて充滿せられて居る資本主義が解體したら、其處に突如として自由と歡喜の新社會が出現する者ではない。合理的なる新文化は不合理なる現社會の氛圍氣裡にあつて建設せられねばならぬ。換言すれば廢頽せるブルジョワ文化の貝殻の内から四面にひらがる質本主義的濃霧と黒煙を排擠しながら理想的社會は建設せらるるのである。之れが新文化創造に於ける労働運動の使命であり新社會建設の核心である。

(97)

## 第六 勞働運動と智識階級

### 一 知識的勞働者問題は重要である

歐洲戰亂は人類社會に幾多の教訓と刺戟を與へた。就中最も注目すべきは、缺陷多き舊社會組織を合理化して、人類生活の眞實なる確立を凝視せんとする。新しき文化的欲求に民衆を眼醒めさせたことである。我國がこの戦争に参加した効果は、物質的に山東省の利權を獲得したことである。併し山東省の利權獲得は、社會生活の進展より見れば問題とはならぬ。それよりも更に猶重要なることは、我國の民衆が社會的良心に覺醒したことであらう。其の結果同盟罷業が簇生し、知識階級は動搖し出し、遂に社會的不安の強調が現はれたのである。同盟罷業の頻發、勞働問題紛糾、此等は一般世人の注意を喚起して、今や我國朝野を通じて

これが解決に忙殺されてゐるようだ。併し我國勞働問題の強調は、資本主義的精神の進展に伴ふ必然的の反映で、今日の如き勞働不安の状態は、當然到着すべき進化の過程である。殊にこれは我國民衆の大部分を形成する所謂勞働者階級の社會的良心の發露であつて、寧ろ大いに慶賀すべき現象である。唯これに關聯して我々の等閑視することの出来ないものは、知識的勞働者問題即ち無産知識階級の問題である。

こゝに無産知識階級と云ふは、所謂總ての俸給生活者を包容するもので、從來誤つて中産階級と稱せられたものである。即ちこれを具體的に云へば、下級官吏教師、支配人以下の會社銀行員、及其他の自由職業に携る者を包容するものである。勿論これらの者は、社會の中間階級を組織するものである。併しかの中農者及び中商人の如く恒産を有するものではないから、中産階級とは云へないのである。彼等は總て自己の勞力を提供し、その反對給付として一定の給料を取得して

衣食する者である。故にこの點に於ては所謂プロレタリアの圏内に屬すべきものである。然しながら、これらの者の提供する勞力は、かの筋肉労働者の提供するものと自ら異つて居る。従つて彼等筋肉労働者よりも知識の程度高く、この點に於て中産階級及びそれ以上の階級者と或る意味に於て共通の要素を持ち得るものである。是れは通常頭腦労働に従事するからである。今これら無産知識階級者の生活を見るに、肉體的労働者のそれよりも比較的安固で、その生活の様式も比較的自由である。併しこれとても或る場合に於ては、筋肉労働者のその如く、何等かの束縛に置かれることは勿論ある。従つて無産知識階級は、筋肉労働者と何等異なる所なき社會的條件に決定されたる者である。されば、現代社會生活に於ては、彼等も亦筋肉労働者と離るべからざる利害の共通點を持つものである。

## 二 智識的労働者の社會的並に經濟的地位の逆轉

惟ふに、從來我國に於ける無産知識階級の生活は、極めて容易閑散であつた。即ち官吏、教師、及び自由職業に従事するものは、其の社會的地位も高く、且つその収入も潤澤であつて、彼等は社會的生活に於て、何等の不安をも感せず、英詩人グレイの所謂 "Simple living and high thinking" を恣にしてゐた、そして社會の有ゆる有能な分子は競つて之らの職業に投じ、彼等の生活を外にしては、社會生活の幸福は、何處にも見出すことが出来ないように思はれた。生活の安定を保證されたる彼等は、激甚なる社會生活の波濤を外に見て、或者は圍碁謠曲を樂しみまた或者は先哲の遺書に親み、何等生活の脅威に對して、心を惱ますようなことはなかつた。

然るに最近の資本主義的經濟生活の進展は、其の進化必然の歸結として彼等の境遇に激甚なる變化を齎した。底止する所を知らざる物價の昂騰は、彼等の生活の安定を根本的に脅威し、それが爲に彼等は、從來の如き安易なる生活を全然轉

覆された。そして往時に於て羨望の的となつてゐた彼等の社會的地位は、時代の物質的思潮の波及のために、地に墮ちて跡方もなく、且つその地位を繕はんとする懊惱は、益々彼等の生活を慘澹たらしむるに至つた。實に今日に於ける彼等の状態は、肉體的勞働者のそれよりも悲惨なものである。斯の如き境遇にあるにも拘らず、彼等の大部分は未だ經濟的進展の大勢を達觀することが出来ない。徒に過去の特權的生活を偲び、或は宿命的の人生觀を固執して、極めて退嬰的の卑屈なる生活に甘んじてゐると云ふは何事であらうか。尤も彼等のうちの聊か頭腦の鋭敏なるものは、既にこの階級を蟬脱して身を實業界に投じてその物質的壓迫から這れんと試みてゐる。又或者はその社會的地位を脱却せんとして曲學阿世官僚の走狗と變じて居る。又或者は所謂富豪の奴隸と化して、資本主義の擁護に努めて居る。殊に會社銀行員に至りては、歲月の經過と共に資本家階級に累進するの一縷の望みを抱き、日々の不平不満に耐へて、退嬰的の生活をするものも尠くない。

斯の如く今日の無産知識階級者の大部分は、傳統的の舊慣習と、宿命的の人生觀の奴隸となり、漫然と消極的の生活に蟄居してゐる。然るに同じく無産者階級にして、而も知識の程度迥かに下級なる筋肉勞働者は、彼等の上に及ぼす社會的不合理を排除して、その階級的解放を計らんとする熱烈なる團結的運動を進展してゐるのである。蓋し何回となく繰返す如く今日の勞働運動は、その本質に於て單に筋肉勞働者の物質的な自我的な慾望を満足せしめんとするものではない。換言すれば、今日の勞働運動の目標は、單なる勞働時間の減縮と勞働賃銀の増加ではない。否、社會的並に經濟的に弱者の地位にある彼等が、今日の如き獨斷的の産業組織を打破してこれを民衆化し、以て社會的貢獻に資せんとするにある。更に換言すれば社會的敗殘の境遇に呻吟し、現代文明の均霑圏外に流浪する勞働者が、其階級的意識に覺醒し、團結の力を以てその久しく彼等の上に加へられたる不合理的壓迫を排除し、その永らく蹂躪せられたる權利の復歸伸暢を計らんとす

るのである。即ち人類共同の所有たる現代文明の恩恵に浴し、同時に自らもその發展に資せんとする文化運動である。故に今日の労働運動は、單に筋肉労働者の解放の努力のみではない。全人類解放の運動である。

若し現代の労働運動が、斯の如き文化的倫理的意義を有するものとするならば無産知識階級も亦、當然斯の如き運動に參與し、以てその階級的解放に資せなければならぬ筈である。然るに徒に過去の因襲に囚はれ、從來の陋習を脱せずして、この筋肉労働者の運動の眞趣を解せず、傍觀的の態度を以てこれを雲煙視するとは何事である。彼の労働者が労働争議の擧に出づる際、自己も亦彼等と利害を共にする同一境遇にあることを忘却して、徒に資本家を擁護せんと努力するが如きは、未だ全く階級的意識に覺醒せざる結果にして、その自殺的なる寧ろ嗤ふに堪へて居る。

然しながら時の力は偉大である。時代の思潮は刻々と彼等の腦裡にも浸潤せざ

るを得ない。際限なき物價の騰貴に伴ふ生活の不安は、終にこれらの無産知識階級の凝結的なる思想に動搖を來たし、今や彼等も亦、正にその階級的意識に目醒めんとする傾向を生じたるは、最近に於ける最も顯著なる社會現象である。かのS・M・Uの發生、小學校教師のデモンストレーション、著作家組合の設立、總てこれらは、無産知識階級の奮起の前表とも云ふべきものである。

### 三 知識的労働者の團結の價値

無産知識階級は、その頭腦勞力を提供することによつて、生活の途を得るものである。故に筋肉労働者と等しく、彼等も亦資本主義に倚賴する階級である。故にその階級的利益の進展を計るには、矢張り團結の力によつて之を實現するより外はない。無産知識階級者は、筋肉労働者よりも思想及び行動の自由を有してゐると云ふものがある。併しそれは或點になると疑問である。否寧ろ筋肉労働者より

も束縛を受けることがないでもない。蓋し筋肉労働者は、労働組合てふ機關に依つて、その政治的意見及其の表現に就て、無産知識階級者よりも、餘程の自由を有してゐる。且つ彼等は集團的行動によつて、彼等の社會的意見並に主張を自由に發表することが出来る。無産知識階級者は此の點に就て殆んど何等の自由を有しない。例へば官吏が少しく政府の方針と背反する言質或は行動に出でんか、忽ちにして免職の厄に遇ふ。會社員は、その會社の労働者に好意を持たんか直ちに解職の憂を見ることも無い。故に無産知識階級者が、眞にその階級的の利益を維持進展するがためには、須く鞏固なる團結を組織せねばならぬ。而して其の團體的勢力たる共同的行爲によつて彼等の社會的並びに經濟的の向上を計るべきである。此處に於て乎、歐米先進諸國に於ける無産知識階級者は、近來各種の組合を組織するに至つた。例へば英國に於ける郵便局員組合、下級官吏組合、或は教師組合、若くは最近成立したる米國ハーバード大學に於ける教授組合、イ

リノイス州立大學に於ける教授組合の如きものがこれである。斯の如くして無産知識階級者は、その鞏固なる組合を組織すると共に、他方に於ては筋肉労働者の組合と提携して、始めて眞の自由と自治とを獲得することが出来ると信ずる。唯徒に過去の因襲及び惰性の奴隸となり、虚偽的生活をなすが如き薄志弱行の徒輩は、改造されんとする新社會に生活する價値のなきものであると云つても過言ではあるまい。

#### 四 知識的労働者の將來

今日の資本主義的社會組織が、幾多の缺陷と弊害とを隨伴するものであることは、何人も拒否することの出来ない事實である。そして過般の戦争は、過去の文明の短所を遺憾なく赤裸々に指摘した。茲に於て乎、覺醒したる世界の民衆は、舊來の瑕瑾多き社會を根本的に改造して、新社會を建設せんと努力してゐる。實

に吾人はかのヘーゲルの道破せしが如く、自然の缺陷に對しては、吾人の權利を主張することは出来ないが、社會的の缺乏は直ちに社會に於ける或る階級に對する反抗となつて現れるものであるとの言を信ずるのである。現代の資本主義的組織が、その必然的の歸結として、有ゆる無産者階級に不合理的の抑壓と掠奪とを及ぼすことは、萬人の認むる所である。故にこの社會改造の好機に當り、その根本的要素として無産知識階級者は、筋肉労働者と共に提携し、一大團結的勢力を以て、その階級的解放を計らねばならぬ。之が即ち理想的新社會の實現に一步を進める所以であらう。

## 第七章 賃金制度の過去と將來

### 一 社會制度の非永久性

資本と労働の衝突は年を逐ふて激甚となり、労働不安なる現象は近代生活の大基調音となつた。實に現今改造すべき方面は幾多あるが、其の最も根本的なるを要するは産業界である。而して從來産業的改造の進捗に障碍物たりし事項は資本家階級並に爲政者の無理解なる態度であつて、彼等は等しく現代の労働不安は労働者の物質的慾望に起因するものと誤信する結果其の對策も亦常に目標を外してゐる。加ふるに此等の特權階級の本能的特徴たる *Status quo* の心理の發露は、是處に最も赤裸々に顯はれ、何時も因循、姑息な彌縫手段を以て欺瞞せんとする。之れが具體化せらるると種々の溫情的施設となり、或は幾多の勞資協調策とな



る。然し斯くの如き小刀細工的手段は労働問題を益紛糾する効果こそあれ、其の解決策としては極めて愚劣のものである事が明白に證明せられた。蓋し労働運動を目して労働者の物質的慾望の満足を要求するものとするは、其の手段と目的とを混同せる錯覺に外ならない。即ち今日労働者が其の労働條件の改善を得んとするは、彼等が其の終極の目的である自我の解放に到達せんとする階梯である。換言すれば階級的意識に覺醒せる労働者は現時の資本主義的産業組織の下に於ける奴隸的機械的境遇より脱却して、自由の人間として其の建設的衝動を充足せしむるに値する産業組織の確立を凝視してゐる。従つて彼等は自己の労働が他の貨物の如く市場に於て賣買せらるるは人格の侮辱で、最早到底之れを堪へ忍ぶ事が出來ない事を感じするに至つた。そこで彼等の或者は斯くの如き不法なる環境に彼等を陥落せしめたる根本的原因是今日の賃銀制度であり、之れが改廢せらるるに非ざれば、永遠に賃銀奴隸の境遇より蟬脱出來ざる事を覺知するに及んで之れが

廢止は彼等労働者解放の第一歩として主張する。例へばかの I・W・W は其趣意書の終尾に、「吾人は公正なる一日の仕事に對する公正なる賃銀てふ保守的標語に代ふるに賃銀制度の廢止なる革新的警語を以て旗標とせざるべからず」と力説してゐる。此他サンデカリストもギルドマンも等しく此點に就ては異論がない。惟ふに如何なる社會制度も其れ自身不朽のものはありません、皆人類社會の不斷の進化の一段階である。賃銀制度も亦畢竟此の例に漏れないもので、會つては賃銀制度や私有財産の如きものが存在しなかつた時代もあつたので、又何時か斯くの如きものが存在しない時代が來るかも知れない。唯此等の制度は社會的進化の或る時代に自然の必要に驅られて出來たものであるから其の必要がなくなるか、若しくは更にヨリヨキ制度が発見されると自然に廢類に歸する場合もあり、又は人力に依つて倒壞せらるる事もある。故に茲に論究せんとする賃銀制度も假令之れが過去の産業社會に於て必要で且つ効果の多大なものであつたとして

も、吾人は左程有益のものであつたとは思考しないが、今日及將來の社會に於ても斯くあらねばならぬ、又は斯くあるべしと判斷するは人類社會の進化の理法を理解せざるの甚しきものであると信ずる。尤も吾人は一制度に倚賴する事の久しきに亘ると其れに狎れ其の弊害の甚大なるに於ても尙ほ惰性的に其の存置を主張且つ冀望する傾向がある。然し乍ら現時の如く社會組織の根本的改造を切實に要求する時機に徒らに惰性の雰圍氣裡に逡巡して何等改造の實績を擧げざるは決して健實なる社會の進展を期する所以でない。而して愈々高潮せる勞働不安の解決に現存の産業組織其儘の維持の不可能なるを覺知する以上、其の徹底的改造をなすに際しては、今その資本主義的産業組織の一柱石たる賃銀制度其物の本質を闡明するは必ずしも無益の業でない。

## 二 賃銀制度の由來

茲に賃銀制度の特質を論究するに當つて吾人は其の産業界に存在するに至つた所以を考察する必要がある。蓋し資本及勞働兩階級の嚴然たる存在は産業革命以後の現象であるが、雇傭契約は古代希臘、羅馬に於て既に見る處で、當時の被傭者は總べて奴隸であつた。従つて、雇傭契約は雇主と奴隸たる勞働者と締結せられるのでなく、勞働者の上に締結せられ、賣買せられたるものは人格を有する勞働者としてでなく貨物としての勞働力に過ぎない。而して古代に於ける何れの國に於ても筋肉勞働は農業上に於ても若くは商業上に於ても總べて勞働を強要せられたる奴隸に依つて爲された。だが斯かる野蠻なる隷屬的雇傭關係は人類の自由を欲求する本能に悖る事と、一方雇主に取りても此制度の不經濟なる事とが明白になるに及んで自然に廢頽するに至つた。

其の後中世紀の手工業時代の雇傭關係は、甚だしく勞働者の自由意志が尊重せられるやうになつたが、それでも尙主從的關係であつて、雇主たる親方は使用者

たる徒弟を監督指導する立場にあつた。乍併此の時代に於ても未だ賃銀労働者の存在する餘地はなかつたので、徒弟は勿論親方より一定の賃銀を受けたが彼等と親方との間の契約は、私法的の性質でなく公法的に決定せられたるものであつて、兩者共ギルドの規定若くは地方の官憲の規則に支配せられた。加ふるに親方對徒弟間の情誼的關係が極めて密接で何等其の間に社會的罅隙がなく、労働者は年月の経過と共に雇主の境遇に昇進するの希望と機會とを充分に所有して居つた。斯くの如く中世封建時代に於ける賃銀制度は今日の雇主被傭者間に見るが如き苛酷にして非人間的の關係を生じなかつたのである。然るに産業革命の結果大規模の産業組織の樹立するや從來の雇傭關係は茲に全く一新せられ、中世紀以降の親方對徒弟制度はギルドの衰滅と共に廢類に歸し、労働契約は全く個人の自由意志に基く事となつた。即ち労働者は賃銀てふ労働の代價を以て自己の労働を賣る事も自由になり、又賣らざる事も自由となり、而も賃銀の決定は労働者對資本家間の自

由契約に任す事となるに及んで、從來公法的關係であつた労働契約が此の時に至つて個人間に締結せられる純然たる私法的關係となるに至つた。爾來労働契約は賣買契約と同様、労働は貨物と同一の法則によりて其の價值を定める一種の商品と化した。こゝに於て現時の賃銀制度は確然と成立せられるに及んだ。

### 三 賃銀制度の特徴

斯くして近代に於ける資本主義的産業の發達と共に賃銀制度は確立せられたのであるが、これは雇主にとつては極めて便宜且つ利益なる制度であるが、労働者にとりて極めて不便且つ不利なるものである事は否定する事能はざる事實である。即ち資本家は其の欲する時に労働を買ひ、之に對して賃銀なる反對給付を差し出すが、其の不用なるに於ては何時なりとも之を解雇し、而も解雇後に於ける労働者の利害休戚には全く無關係であつて何等の責任を有しない。之に反して労働者

が雇主と結ぶ労働契約は相互の自由意思に依るが故に外形上に於ては少くとも公正なるが如く見ゆるが、實際に於てはさうでない。何となれば労働者は資本家と比較すると社会的並びに経済的弱者の地位にある結果、資本家と對等なる契約を爲す事に頗る困難なる事情が伏在してゐる。即ち労働者は労働市場の状況を詳知せざる事と、経済的餘裕の無き事とに依つて自然に過廉なる賃銀を甘受しなければならぬ傾向があり、其の結果必然的に窮迫せる生活に陥落し易い。而も労働者の労働は彼等生活の資源であるから。之を得ると否とは彼等にとつては死活問題である。一方資本家は労働者の此弱點に乗じて唾棄すべきエキस्पロイテーションを縦いままにする事がある。其は資本家が自己の生産物に對する利潤を大ならしめんと欲せば勢ひ生産費を減少しなければならぬ。而して生産費中労働者に支拂ふ可き賃銀は其の一重要々素であるから之れを最少限度に減少しやうと勉むるは無理もない事で、其の結果は労働者の弱者の地位を利用して、之に過少の賃銀

を提出して過大の成果を得んと欲するに至る。而も資本家が縦令労働者を雇傭する事を得ざる場合に於ても之れが爲めに資本家の蒙る所は單に損益上の問題であつて、労働者の如く死活問題では決してない。更に労働契約が賣買契約と甚だしく其の本質を異にする所以は、労働の賣買は商品のそれと異り労働者たる賣主を離れて存在しないものであるから、労働者が其の労働を賣るに當りては労働者の人格も亦之れが爲めに束縛を受けるものである。換言すれば労働契約には、労働者の人格の自由の制肘を意味するもので其れが賣主たる労働者に取りて甚大なる苦痛を意味する事は論を俟たない。況や労働設備の不完全なる場所に於ける労働は、之れが爲めに労働者の身心を根本的に破壊しないとも限らない。然るに斯の如く労働者の労働が賣主の全人格に影響する事の多大なるものゝ有るにも拘らず、其の労働設備に關して賣主たる労働者は何等容喙する権能のなかつた事は何たる悲惨な事であらう。否労働者は唯に斯くの如き権能がなかりしのみならず、

労働の買主たる資本家は労働者を雇傭する事に依つて労働者に生活の途を授與するものなりとして、豪然たる態度を保持し、凡ての労働條件を獨斷的に決定し、專制的の産業經營を爲し來つた事は如何にも資本主義の横暴さが覗はれるのである。

(118)

斯くして賃銀制度は雇主たる資本家階級に至大の便宜と労働者をエキस्पロイトするの機會を無制限に與へると共に、無防備の労働者をして全く資本家の願使に委ねざるを得ざるに至り、契約の自由なるものは何等價值なき一片の名辭と化し其の死活の權を資本家階級に掌握されるに及んだ。惟うに現時の労働者は形式的に於ては古代に於ける奴隸の如く一生を通じて雇主に隸屬するものではない、又強制的に労働を強いられる必要もないのは事實であるが、併し實際上に於ては縱令自由意志に依りて労働契約をするとは言へ、其の自由なるものは實在的の效力を伴はない自由であつて、而も一度其の労働契約を締結するに於ては、其の勞

働は雇主たる資本家の自由意志に束縛せられ而もそれが労働者の生活の唯一の根據である點は古來の奴隸的労働者と差異はない。之れ現代の労働者を賃銀奴隸と稱する所以である。自由は吾人人類生活の必須的要素である。併し乍ら、正義と公正の上に築かれざる自由は自由にして自由でない。労働者が其の生活の根據たる労働を賣るも自由だが、賣らずして餓死するも亦自由である。斯の如き自由は労働者にとりては有難からざる自由である。

#### 四 賃銀制度の種類

賃銀制度の下に於ける賃銀の支拂には時間拂、出來高拂其の他幾多の方法があるが、其の何れの種類に於ても其の本質は同一であつて、労働者が雇主に其の労働を販賣するや雇主は唯に労働其の物の絶對的の所有權を獲得するのみならず、労働の成果である生産物も亦全く雇主の取得する所となる。即ち労働者が労働て

(119)

ふ貨物を雇主に販賣し、其の代價として賃銀を獲得するに於ては自己の労働の成果たる生産物に關しては全く無干渉である事が、労働者をして著しく非人間的ならしむる所以である。而して労働者が自己の労働の成果に就て無交渉で其れが如何なる過程に依つて社會の進化に貢献するかを感知する事能はざる結果、労働に對する創造的愉快と歡喜は全く根本的に滅却し、労働は遂に單調なる動作の反覆となり、苦痛となり、そこに靈性の墮落が始まる。尤も雇主は之れが爲めに労働者の労働能力の減殺を豫防し、其の増進を計らんが爲めに種々の手段を構ずる。例へば彼の出來高拂賃金支拂法、フライイングスケールシステム、或は近時アトキンソンの主張する報償制度若しくは昨今産業界に流行しつつある彼の純益分配制度の如きものは等しく之れが爲めに案出せられたるものであるが、此等のものは單に雇主側に都合よき編縫策であつて少しも問題の核心に觸れて居らないが爲めに何れもさしたる効果はない。

## 五 賃銀制度の理論的根據

蓋し中世紀に於ける手工業制度が崩壊され資本主義的産業組織が確立され其の一柱石たる賃銀制度に依つて至大の利益に均霑したる資本家階級が該制度を謳歌したるは敢て怪まないが、併し賃銀制度を主張したる者は、之等の支配者階級に屬する者のみならず、當時の殆ど總ての經濟學者も亦之が維持の必要を力説した。例へばアダム・スミス、リカード、ジョン・ステュアート・ミル、ベンサム、セニアー等の個人主義論者は雇傭關係の本質を誤解したる結果、賃銀制度の維持は社會的組織及經濟的制度の維持進展に缺くべからざるものであることを主張した。殊に彼等は賃銀基金説なる謬説を立てて資本家階級の擁護に餘念なかつた。而して其後賃銀基金説は迷論として根本的に打破されたが、之れが英國の労働者運動の進展を阻害したる事は決して少くなかつた。而して一方資本主義的産業組織の下に

無残に蹂躪されたる労働者階級は、其の未だ階級的意識に覺醒せざる間は縦まゝなる資本家のエクスプロイテーションを甘受して居つたが、其の階級我に眼覺めると共に境遇地位を同じうする彼等は團體的の勢力を以て資本家階級に對抗し其の自助的努力に依つて、其の經濟的並びに社會的の境遇地位の向上を計るに及んだ。爾來労働者は、其の團結的運動に依つて彼等の向上に資したことは決して尠くない。併し乍ら何れの國の労働者運動も其の當初に於ける主要なる眼目は單に資本家と締結する労働條件の改善に過ぎなかつた。併し乍ら彼等の運命の進化發達と共に彼等の目標は漸次に現代に於ける資本主義的産業組織の根本的要素たる賃銀制度其の物に集中せられ、賃銀制度なる物が撤回せらるゝに非ずんば彼等の完全なる解放を貫徹する事能はざるを理解するに及んで之れが廢止を企圖するに至つた。

## 六 社會改造の前提

惟ふに、現時の労働運動の終局の使命は労働者が人間としての純良なる生活クラフラインを完全に享有するに在る。而して之れが爲めに最も必要なる重大要素は生活の保障と自由である。而して古代に於ける奴隸は生活の保障を得たが、自由を全然否定せられて居つた。今日の労働者の要求は生活の保障と獨立せる自由を得んとするものであつて、現時の賃銀制度は此の兩者を拒絶する所に一大缺陷がある。されば賃銀制度の廢止は労働問題解決の第一歩として爲さざる可からざる所にして、吾人は更にヨリ良き制度を確立しなければならぬ。實に近代の労働者は彼等を物質的貨物と同一標準に見做す墮落せる産業組織の下にあまりに長く虐げられて來た。而して今や彼等は斯くの如き不合理的壓迫に反抗し、唯に彼等の團結勢力を以て彼等の經濟的並に社會的の改善を企圖するのみならず、更に現存産業組織の改

造を要求して止まない。然り、今日の労働者はマクキザアの言ふが如く、其の實力の新しい自覺に眼覺め、其の要求は擴大され、その水平線は唯は生活賃銀を得んとするに止らず尙ほ産業經營の參與權を獲得せんとするに至つた。英國に於ける全國鐵道従業員組合の書記長であるデエー・エツチ・トーマスは倫敦に開催せられたる勞資代表者の大會に於て述べて曰く、「大英國の職工組合加入労働者は彼等の労働の成果である富のヨリ多き分配を得んと決心してゐる。且つ三角同盟の労働者は各種の産業に於ける労働時間の短縮を得んとして止まない。彼等は彼等の労働力を恰も富の生産及び分配の過程に於ける機械類似の單位として賣買せらるゝ單なる貨物として取扱ふ社會組織に不満足である。従つて彼等は産業界に於ける實際上の共同經營者として労働状態及經營を共同的に決定せんと要求する。故に各政黨所屬の政治家の決心せざるべからざる事は甚大なる變化の來るべき事であつて其れに對して之れを熟慮し、之に備へるは賢人である。愚人は徒らに事實

に依つて其の確認を強要せられる。如何なる國に於ても吾人は労働者が變更を要求しつゝあるを見る。我國に於ては此等の變化を平和的に、且つ、秩序的に爲す事も出来る。實に現在の不安は煽動的好事家の業務でなく、多年の實驗の成果であつて戰爭の發展に依つて高潮されたものに外ならない。故に吾人は政府が其の大勢に順應せん事を希望するものであつて、我國の労働者は單に彼等の不満が強制せらるゝ事を欲するのみならず、直接の改善以外に何物かを要求するものである。』と、多年労働運動に従事し其の指導者として此の言あるは穿ち得て餘す所がない。

○ 要するに現時の覺醒せる労働者の要求は從來の如き、封建的産業組織を改造して之れを民主化し、社會の小數特權階級たる資本家の營利の爲めなく社會全般の福祉増進の爲めに入類生活に必要な新財貨を生産せんとするに在る。此の點に於ては從來の産業組織は極めて不健全であつて人間の爲めの財貨であるべき筈



のものが財貨の爲めの人間であるかの如き観があつた。實に今後の産業的改造は凡ゆる彌縫的手段を弄せずして、其の根本的原因に遡つて之を爲す必要がある。其れが爲めには弊害多き賃銀制度の廢止は其の前提であらねばならない。

## 第八章 労働と教育

### 一 特權階級の労働者教育観

近時我國に於て労働問題の愈々紛糾するにつれて、労働者の教育の必要なることが、或一部の人々に力説せらるゝやうになつた。而してこれらの人々の主張する所に據れば、我國に於ける労働運動は、外國のそれに比較して甚だしく不節制且つ附和雷同的であつて、斯くの如きは、要するに我國労働者の教育の不足に基く結果なるが故に、現在の労働運動を穩健化する上にも、又我國労働問題の解決にも、根本的に重要事項であると云ふのである。この趣旨から夫の有名なる協調會に於ては所謂「**社會技師**」なるものゝ養成を目的とする、労働者教育の學校を開始せんとする計畫があり、また知識階級の人々に依つて企圖せられつゝある労働

者教育の機關も若干あると聞いてゐる。而して労働者に教育の必要であることは、吾人も認めるものである。教育が全人格の完成を期すべきものであつて、これが一般民衆生活のために、絶對的に必要缺くべからざるものであるが如く、労働者の生活のためにも亦、無くてはならぬものである。而し從來我國の労働者は教育を受けんと欲して受くる能はざる境遇や環境に置かれたものである。即ち彼等はやつと物心がつくや否や工場に出で、労働に従事せねばならぬ。而もその労働條件は甚だしく苛酷であつて、賃銀は過廉、労働時間は過長なるが故に、到底彼等自身を教育する事が出来ない。よしやこれらの逆境に逆つて教育を受けんとしても、從來我國の支配階級のもの、労働者に教育を興ふることは頗る好まなかつたことは事實である。彼等は常に云ふ。「労働者がなまじひ教育を受けると生意氣になつて働くのを嫌ふやうになる」と。斯の如き口實はよく我等の耳にする所で、嘗に工場労働者のみならず、我國に於ける頑迷なる雇主は、有識労働者た

る會社員銀行員に對しても、最近になるまで斯の如き態度を固執して居つた。これは嘗に資本家階級の者のみではないので、官僚政治家も亦一般の民衆に對して斯の如き見解を保持して居つたことは、否定し能はざる程明白なる事で、臺灣乃至朝鮮に於ける彼等の統治策は、この事を赤裸々に曝露してゐる。斯の如く我國に於ける支配者階級の人々は、労働者の教育を阻害し、彼等の奴隸生活を助長せんと努力して居りながら、我國の労働者の教育が不充分なることを痛嘆するは非常なる矛盾である。而し乍ら我國に於ける労働運動は、これを歐米諸國に於けるそれと比較して、その進化の年月も未だ極めて短期なるが故に、或は訓練の不充分なる所や組織の不完全なる點があるのは、無理もない事である。而し最近に於ける覺醒せる我國の労働者の運動は、或る一部の人々が云ふが如く無節制無規律では無いと考へる。否寧ろ彼等が逢着する現時の彼等の上に及ぶ壓迫と艱難とを顧慮してこれを思ふ時に於ては、彼等の運動は實に正々堂々たる所が多いと信ず

る。

## 二 我國教育の本質的缺點

我國に於けるこれ迄の一般教育は、本質的缺陷が可成り多かつたやうに思はれる。吾人の見解に據れば、教育の終極の使命は、全人格の完成で被教育者に潛せる性能の發揮であるべきことは勿論、教育其者に一定の理想が無ければならぬと思ふ。然るに我國の教育は、これが無い結果極めて形式的な拘子定規的な詰込主義で、加ふるに教師の薄遇と校舎の不完全なるが爲めに、教育の趣旨が少しも貫徹されてゐないやうである。殊に教育に社會的理想の缺如してゐること、一方には偏狭なる國家主義の高潮とが相俟つて甚しき弊害を助成したのであるまいか。我國に固有なる所謂美風良俗（其大部分は内容價值の零なるものが多い）を力説することは毫も差支へないが、それに驅られて我國民性の缺點を覆ひ、他國

る。

## 二 我國教育の本質的缺點

我國に於けるこれ迄の一般教育は、本質的缺陷が可成り多かつたやうに思はれる。吾人の見解に據れば、教育の終極の使命は、全人格の完成で被教育者に潜在せる性能の發揮であるべきことは勿論、教育其者に一定の理想が無ければならぬと思ふ。然るに我國の教育は、これが無い結果極めて形式的な拘子定規的な詰込主義で、加ふるに教師の薄遇と校舎の不完全なるが爲めに、教育の趣旨が少しも貫徹されてゐないやうである。殊に教育に社會的理想の缺如してゐること、一方には偏狭なる國家主義の高潮とが相俟つて甚しき弊害を助成したのであるまいか。我國に固有なる所謂美風良俗（其大部分は内容價値の零なるものが多い）を力説することは毫も差支へないが、それに驅られて我國民性の缺點を覆ひ、他國

# 欠

# 欠

全人類のためであるとの觀念に覺醒したことは偉大なる進歩である。更に我國に於ける教師の待遇の劣悪なることは、教育の効果を甚だしく低減するもので、殊に最近の如き經濟生活の亂調なる時は、斯の如き薄遇は最も有害なるもので、常に有能なる者が教育界を放棄するのみならず、猶ほ有爲の人材の教育界に入ることを阻止するものである。近時教育家が實業界に轉じ、或は師範學校の入學者がその募集人員に満たず、その質に於てもその量に於ても從來より著しく低下したりとのことを耳にしたるは、この點を明瞭に證明するものである。

實業界に入る者も、師範學校に入る者も、  
三 現狀維持の教育方針

我國教育に何等一定の理想なきことは、その必然の結果として現狀維持の心理を教育界に漲らすこととなる。即ち教育に於けるどの階級にも不偏なる態度は、自然 status quo を維持することとなる結果、今日の特權階級を擁護することとなる

る。殊に營利的でない教育的事業は、その物質的財源を國家若くは資本家階級に求めなければならぬも事實である。而して國家の援助なき私學に於ては、その財源は全く資本家の寄附によつて成るが故に、勢ひ資本家階級に反抗することは出来なくなる。更に何等の社會的理想の方針を持たないことは、自然的に教育なるものが被教育者の個人的な物質的成功を得る手段となる弊害を醸成する。この點は殊に専門學校の教育に最も顯著であつて、現代の物質的文明の高潮せる時代に於てはやむを得ざることであるが、専門學校に於ける學生の大部分は、卒業後就職せんとする個人的の目的を達せんがために、賣らんかな主義を持つて教育を受けつゝある。斯の如き現象は決して慶賀すべきことでないのであつて、眞の教育は單に被教育者の個人的成功の手段に供せらるべきものでなく、社會奉仕の精神を以て實施せらるべきものであらねばならぬ。歐米諸國に於ける近時の教育界の新傾向は、この方面に於ても尠なからず現れてゐる。假令へば戰時に於ける獨逸

の教育上の文献は、社會奉仕の爲めの訓練を、非常に高調してゐる。而してこの新傾向は幾多の大學に於て婦人を社會奉仕の爲めに教育することに具體化されてゐる。即ち婦人をして小兒保護事業、住宅改良、貧民救濟、工場生活の福祉増進等の問題に就て興味を持たんとするのである。假令へば一九一七年ハンブルヒに於て、社會改良家として命名あるゲルツルド・ポイマ女史及びマリ・バウン女史の指導の下に開始されたる女學校は、専門に斯くの如き社會改良事業に従事せんとする婦人を養成する目的を以て組織されてゐる。其他斯の如き社會事業指導者の養成を目的とする學校は、マンハイム、コロン等にも開催せられ漸次に隆盛ならんとしてゐる。この他英米諸國に於ても、斯の如き趣旨を持つて經營してゐる學校は、決して尠くない。特に最近米國に於ては、社會問題に關して徹底的の研究をなし、其の解決策の根本的精神を探究せんとする *New School for Social Research* なるものが組織せられるに至つたのである。

#### 四 ブルジョワ教育の失敗

惟ふに從來の我國に於けるブルジョアを背景とする教育は失敗であつた。知識は人類の共有物であるから、何人も之を受けんと欲するものは、受けらるべき筈のものが、實際に於てはそうでなく、極めて少數の特權階級の子弟のみが之れに均霑し、國民の大多數は如何に才能があり、如何に之れを欲求するも、これを受けることが出來ざる状態は、取りも直さず我國教育の不健全なることを指摘してゐる。而しこの缺陷は單に我國のみでなく歐米諸國に於ても亦同様である。茲に於て知識階級の先覺の一部の者は、教育の範圍を廣く労働者に普及して才能を有し資力を有せざる労働者に教育の均霑を完たからしめんと努力するに至つた。このことは疾に英國に於て主張せられ、且つ實行せられてゐる。假令へば夫の一八九九年ゲルマン夫妻によつて創設せられたる、ラスキン・カレッヂは、専ら勞

働者の教育を目的とするもので、既に卒業せる労働者は五百人餘に達し、これ等の者は今日種々の職工組合、消費組合、労働者倶楽部の指導者として活動してゐる。この外に同校は労働問題に關する通信教育を實施してゐるが、これが利益に與つた労働者は、既に一萬人以上に及んでゐる。戦前に於ける數年間の學生の平均數は、凡そ三十人乃至五十人にして、これ等の者は設備の良好なる寄宿舎に於て就學してゐる。戦時に於ては大學に於ける授業は中止されてゐたが、通信教育は非常に成績よく行はれてゐた。猶ほ労働者教育協會なるものが一九〇三年に設立せられて、労働者の教育に熱心なる努力をしてゐる。獨逸に於ても戦時中國事多端の秋であつたが、教育の改造には極めて熱心で從來の少數者のみ均霑する教育方法を改正して、如何なる階級の人々も資力の缺乏のために教育を受けること能はず、その結果有爲の人材が埋没せざることに努力した。このことは主としてベトマン・ホルエツヒ氏によつて唱道せられ、その結果有力なる委員會が組織

せられ、如何にせば有能なる者の教育を完全にすることを得るかとの問題を協議した。これが『有能者向上運動』(Aufstieg der Begabten)として非常な熱誠を以て歓迎されてゐる。更に獨逸に於ては地方に於て大學教育を受くること能はざる者、殊に青年労働者に數ヶ月間主として、精神的及び道德的の高等教育を與ふる講習會の如きものが盛んに行はれた。これは同國では『平民高等教育』(Volkshochschulen)として知られてゐるもので、地方に於て實際労働に従事しつゝある労働者に、短期間人間としての修養教育を施すのが目的であるが、斯の如きは獨逸に於ける教育上の最も顯著なる現象である。

以上の如く歐米諸國に於ては、教育の範圍を廣く労働者階級に普及せんとする運動が盛んであるが、一方覺醒せる労働者のうちには、ブルジョアを背景とせる教育そのものに非常に不満足で、これを根本的に打破してプロレタリア自身の文化の創造を目的とする新教育を樹立せんとするものが尠くない。假令へば既に説

いた如き英國に於ける労働者教育の最高機關であるラスキン・カレッジは、近年まで多くの労働組合がこれを支持してゐたが、最近に於て急進的なる労働者は、同校が漸次革新的労働運動の見地から離反しつゝあることを憤慨し Plebs League なるものを組織し同校と實際労働運動との接觸を密接ならしめんとしたが、其後これに満足せず遂に一九〇九年に於ては、ラスキン・カレッジとは斷絶して別に『中央労働大學』(Central Labour college 其後 Labour college と改む)を設置して、純然たる労働者の立場からの労働教育を開始した。而してその設立の趣意を見ると、大體次の如きものである。

- (一) 本大學は勞資間の利益の背反を認容する事を基礎とす
- (二) 本大學の目的は確然たる功利的の性質を有する教育を授く。即ち現代の資本主義的社會に勢力を有する特權階級的思想及び理論に反抗して、労働階級の利益を宣傳及び防禦するに必要なる訓練を労働者に與ふ。……



(三) 本大學は勞働團體即ち職工組合、社會主義者の團體及び消費組合等の代表者によつて所有せられ且つ管理せらるるものとす。

而してこの大學の勢力は可成り強いもので、地方に於ては諸々に講習所を設けてその勞働者の教育に盡力してゐるが、諸々の産業的中心地、假令へばサウスウエルス、ランカシャ、ノーザンバランド及ダーラム等に於ては、非常に勢力があるらしい。

蓋し急進的勞働者が從來のブルジョア教育の全部を否定して、彼等特殊の教育を樹立せんとするは、其間に尤もな點が無いではないが、この點に於て注意すべきことは、コールなども指摘してゐる通り稍々もすると狹隘なる態度に出で勝ちなことである。若しも勞働者が從來の教育を根本的に破壊し、プロレタリアリズムの教育を組織するに當つて、偏狹なる範圍に於て勞働者階級の文化を樹立せんとするは、取りも直さず從來のブルジョアジの誤謬を繰返すが如きものであ

欠

# 欠

## 第九章 産業的平和の基礎

### 一 強調せる我國の労働不安

今や労働問題は、我國に於ける朝野の一大問題となり、これに關する論議檢覈の盛んになつたことは、實に驚くべきほどである。蓋し今次の大戦が各方面に齎した影響は、現代社會に於ける百般の事物に對して殆んど想像すらも許されないほどであるが、就中労働者の心理状態の變遷は最も顯著にして、労働者は彼等の階級的意識に眼醒め、彼等に偉大なる社會的創造力が潜在せることを自覺し、戦後の社會改造に參與せんことを主張するに至つた。即ち我國の労働者も從來の資本主義的專制々度に反抗して、自由と平等とを基礎とせる立憲的産業組織を樹立せんと欲求してゐることは、吾人が最も注意せねばならぬ所である。世人稍々も

すれば、労働運動を目して労働者の我利的慾望を満足せしめんとするの不當行爲なりと稱するものもあるも、これは甚しき誤解である。尤も労働者が労働運動の直接の眼指す所は、より高き賃銀とより短き労働時間とであるが、是れもとより労働者が現在の如き不合理なる環境を脱却してより高きに達するの手段にして、彼等が運動の目的とする所は、常に現代文明の恩澤に浴せんとするのみならず、更に一步を進めて彼等労働者も亦文明そのもの、創造に參與せんとするにあるは言ふを俟たざる所である。尤も我國労働者の大部分は、的確に斯くの如き労働運動の使命を意識してゐないかも知れぬが、尠く共彼等は漠然ながらも現今の産業組織が不合理なるがため、これを排除して、彼等も人間としての生活、人間としての環境を自らの飽くなき努力によつて創りつゝあることは争へない事實である。

## 二 資本家心理の解剖

然るに我國に於ける資本家階級は、この覺醒せる労働者の要求を理解せず、労働者は依然として舊時の如く無智蒙昧なるものなりとし、その甚しきものに至りては、現時の労働不安はこれ少數の煽動家の惡戯なりと妄信して、封建時代に於ける産物なる温情主義の如き時代錯誤的態度と手段とを以て労働問題の解決を計らんとするものあるに至つては、吾人はその無識にして愚劣なる態度に驚くの外はない。偶々彼等が世界に於ける労働運動の眞精神を語るものあるとき、彼等は徒に我國と歐米諸國とを區別し、彼我の國情の異なるを理由として我國に發生せる労働運動のそれと異なるものあるを辯護し、假令へば労働組合に於ける労働者の團結を批難し、斯の如きもの、發生するは、徒に我國に於て階級闘争を誘致せんとするものなりとし、寧ろ彼等が好意的に労働者の幸福を増進し、以つて資本と労働の協調を企圖し得べしと主張するものがあるが、斯の如き手段を以つて現代に於ける労働運動を緩和せんとすることの不可能なるは、今更呶々を要せぬことである。

### 三 労働者團結の急務

惟ふに資本家と労働者と結ぶ労働契約は形式上に於ては平等の如く見ゆれども、労働者と資本家は現時に於ては社會的平等の地位に立脚せず、且つ労働者は甚しき弱者の地位に立つてゐるから、彼等は團結せずんばその弱者の域を脱して平等の地位に立つことが出来ない。のみならず労働者が職業或は産業を中心として團結し以て其の自發的方法に依つて其の運命を開拓せんとする努力は實に嘆賞に値する。然るに資本家も之れに對して反感を抱いたり、若しくは之れを防止せんとするが如きは將に社會的罪惡を構成するものであると云ふも敢へて過言ではない。而して我國の資本家の大部分は未だ舊時代の陋習、舊慣を脱せず、依然として労働者の團結を阻害せんとするは誠に時代思潮に通達せざるものである。吾人は斯くの如き頑迷なる資本家の一例として近時得たる實驗を公示せんとするものである。

のである。

### 四 労働者團結抑壓の一實例

我國の労働團體は最近に於て數個顯はれたが、然し數年の間労働者團體として存在したるは何んと云ふも友愛會のみである。友愛會は世上幾多の非難あるも兎も角過去數ヶ年労働運動の困難なりし時代に於て之れを設け、今日に於ては二萬に近き會員を包容し極めて穩健、着實の方法（或者は餘りに微溫的退嬰的なりとすら云ふ）を以て労働者の自治團體を作りつゝある。然るに斯くの如き甚しく溫和的な何等資本家に對して挑戰的態度に出でざる友愛會を我國の資本家階級の一大王國たる三井があらゆる方法手段を盡して破壊せんとしつゝあるは笑止千萬である。恰かも昨年の冬福岡縣下大藪鑛山（三井所有）に働く一工夫光吉悦心氏が友愛會の綱領、主旨に賛成し、數名のもと同鑛山に友愛會支部を設けて鑛夫

の自助機關とした。而して支部は其後會員も漸次増加し、順調に發達をなし居りし處、本年二月上旬會社は炭坑内に衛生組合なる名目の下に鑛夫と役員の意味疏通機關なりとして一種の組合を設け、其組織は炭坑在住の稼主鑛夫をして長屋一棟（一棟は四室又は八室に區劃し、四家族若くは又八家族の住居）より一名の十長なる者を記名投票にて選出せしめ、十長十名乃至八名より一名の組頭なるものを互選せしめ、此組頭をして會社と交渉せしめ、若くは婚禮、葬祭等の諸務を司らしむる事とした。其結果組頭なるもの十七名選出せられ、之れに對して辭令交付式を行ひ、會社を代表して炭鑛主事某氏は一場の訓辭して曰く「會社側に對して組頭は交渉する事を得るも必ず一人々々出頭して意見を吐露すべく、多人にて申込むも一切受付けず、尙目下一部野心家が何々會とか何々組合とか言ひふらして勞働者を煽動する者あり、若しかゝる會又は組合に勞働者が加入するに於ては法律上の罪人となるが故に決して入會せざる様、又自己の受持組内にかゝる

不法の團體に加入し、又加入せんとする者ある時は極力其の不心得を諭し、其れに服従せざるものある時は密かに坑夫事務所に出づるべし」と、斯くの如き言辭は甚しく勞働者を愚弄したるものなりと組頭中の友愛會會員は憤慨して居つた。次に會社は數年前の職業上何等關係せざる個人的過失を理由として友愛會支部の設立者たる光吉氏を突然解雇し、同時に全力を集注して大活動を開始し、鑛夫事務所より多數の役員を派出して友愛會員の私宅を巡訪せしめ、種々なる惡辣なる手段に依りて退會を迫らした。即ち此等の者は一樣に友愛會の如き團體に加入するは不利なりと大言し、其の甚しきに至りては友愛會は露國過激派の如き危険なるものであるが故に當坑稼働者をしてかゝる會に加入せしめ得ずとさへ云つて威嚇し、更に退會を肯ぜざる者と呼び寄せて言明して曰く「君等が飽く迄も自説を固持するに於ては會社は百數十人位解雇するは少しの痛痒を感じない。三井は大きいものだ。又若し君等を當坑が解雇して他の會社に就職せんとするも、當坑よ

り解雇理由を通知すれば他の会社に就職する事能はざるべし。然からずとするも  
會社が異様な手段を講ずるに於ては例へば坑内作業中に於て君等の生命に危害を  
加へるが如き方法に出づるは容易なる事である。兎に角會社の方針は斯くの如き  
ものであるから解散せよ、之れは自分個人の意見でなく、會社の方針なるを明言  
す」と。茲に於て友愛會員は會員報告の文句を引用すれば「血涙を吞んで解散し、  
同志は固く約して時期を見て再興を謀るの外なかるべし」と思つた。而して會社  
は直ちに一冊の帳簿を作製し、其の最初の頁に次の如く記載して之れを會員に提  
示して署名捺印を要求したのである。

#### 誓約書

拙者儀從來友愛會に加入致居候處都合に依り、今般脫會仕り候に付爾今該會と  
の關係相斷ち申すべく、爲後日誓約書差入置候也  
斯くして百數十人の會員を有する大藪炭礦に於ける友愛會支部は全滅したので

あるが、かくの如きは實に三井の労働者團體抑壓の方針の一發露であつて、労働  
者が當然有する團結權を禁壓し、誓約書の如きものを差入れしむるが如きは其の  
愚劣なる驚くに堪へてゐる。

#### 五 我國労働運動を惡化するものは誰れぞ

なる程我國産業界に於ける三井は大きい。労働者は弱い。然しながら弱きもの  
を掠奪し、迫害する結果の頗る恐ろしきものある事は三井の決して忘却看過して  
ならない事である。徒らに自己の階級的利益のみを追ひ、自國のインテレストの  
みに齷齪して、他を顧みざるものは必ず滅ぶ。殷鑑遠からず露西亞にあり、獨逸  
にある。實に我國に於ける資本家が斯くの如き抑壓的手段に依りて労働者の團結  
を阻害せんとするは實に我國労働運動を過激化するのみならず、資本家はかくし  
て其の親らの死墓を急激に掘りつゝある事を忘れてはならないのである。一體我

國の資本家は今日の如き世界改造てふ一大革新の初頭に於て尙も我國封建時代の主從觀念を固持し、其の甚しきに至りては勞働者の人格所有者たる事をすら看過して貨物取扱するが如きは實に其の近代思潮に迂遠なる寧ろ哀れむべき程である。借問す、彼等資本家はたとへ現代に於ける勞働運動の目的の奈邊にあるやを理解せずとするも、かの侮蔑せられたる猶太人シヤイロツクの口を通じて顯はれたる虐げられたる者の悲痛の叫が理解出来ないであらうか。

「おいらだつて針で突かれりや血が出るわい。くすぐられりや笑はんでとられるかい？ 毒を飲まされりや死なんでとられようかい？ 侮辱されりや、復讐をしないであらうかい？」

噫、今日我國の勞働者を驅つて惡化せしめ、我國に階級闘争を助長せしめつゝあるは我國の勞働者自身でなく、將た又外來思想でもない、實に我が頑迷なる資本家と無理解なる官憲當局であると云ふも敢へて過言ではあるまい。

惟ふに今日の勞働運動は物質的生活の劣等なる勞働者が、其の經濟的充足を要求する努力ではない。寧ろ人間として目覺めたる彼等は賃銀奴隸の鐵鎖を切斷して、自由、獨立の生産者として社會的奉仕をなさんとする道徳的衝動に起因する事を注意せねばならない。即ち勞働者は過去に於てはいざ知らず今日に於ては資本家てふ特權階級の爲めに勞働する必要を感じないが爲め社會全般のために其の勞働を提供しようとするのである。蓋し近代に於ける生産が社會的事業である事は何人も之れを拒否するものはあるまい。然らば之れに従事するものは何人と雖も其の遂行に當りては參與の權利がある。然るにかゝる社會的事業たる生産を經營管理するに於て今日の如く資本家のみが獨斷的に之に當り、勞働者は單に一定の賃銀を收得して資本家の爲めに其の命ずる儘に勞働し、生産の經營、管理に於て何等參與する權利を有せざるは極めて不合理である。故に彼等勞働者はかくの如き産業的專制主義を排除して、産業其ものを民主化し、賃銀奴隸の境遇より

解放せられて、自由、獨立の生産者として社會的貢獻をなし、以て人類社會の健實なる進展に資せん事を要求してゐる。之れが労働者の終局の理想である。従つて我國資本家が労働運動のこの使命を理解せず、労働問題はこれ單に胃の腑の問題なりと考へたり、或は救貧問題なりと思つたりして、労働者が頼みもしない種々なる温情主義的施設をいくら骨折つても到底労働不安なる現象は去らない。實に資本家が直に我國に於ける労働問題を解決し、以て産業的平和を希望するならば先づ現代の労働運動の使命の何處にあるかを考察し、自己を反省し、其の生産を民主化して之れを合理的基礎に置くにある。然からば労働者は最早や労働運動の必要もなく、資本家も今日の如く煩悶心痛する事なく産業的平和は永遠に確立せられて次の豫言が實現せらるゝであらう。

"No one shall work for money, and no one shall work for fame, but each for the joy of working"

## 第十章 クローズド・ショップに就て(團體交渉權の要求)

### クローズド・ショップの本質

労働者が労働組合を組織し、其の團結的基礎が漸次鞏固となり、其の階級的自覺が深刻となればなる程彼等は資本家に取り結ぶ労働契約を個々にする事を肯せず、集團的にせん事を主張し其れと同時に資本家が自己の工場に於て労働組合に加盟せざるものを使用したり、若しくは労働組合員に非ざるものを雇入れる事に反對するに到るは労働組合運動の進化必然の過程である。茲に論究せんと欲するクローズド・ショップは労働組合が其の團結權を完全に實現せんと欲する上の一手段であると云つて差支へない。一體クローズド・ショップ (Closed shop, bon-tigue d'union, union werkstatt) の意味は終始一貫してをらないもので種々なる



變遷をしてゐる。先づ此の名辭が最初使用せられたる頃は労働組合が其の主張する労働條件を容れない工場には所屬労働組合員をして該工場に就業する事を禁じる事を意味したものである。反之労働組合員が當然就業する事が許されてある工場をオープン・ショップ (Open shop, boutique ouverte, offener Werkstatt) と稱してをつた。然るに千八百九十年頃から此意味と全く別の意義に使用せられるに至つて、遂に現在に及んでゐる。今日云ふ所謂クロード・ショップなるものは工場主が労働組合に對して自己の工場に於ては労働組合加入者以外のものは使用せざる事を宣明實行する状態を稱するのである。換言すれば工場主が労働者の團結を認容し其集合契約を尊重して労働組合員以外のものを使用せざる事を明言實行するので、要するに其の工場を非労働組合員に閉鎖する事である。之れに反して工場主が其の工場に使用する労働者に對しても、又新たに雇入れるものに向いても労働組合員たると否とに係らず自由意思で決定し、形式上労働組合員並びに

非労働組合員に何等差別的待遇をなさざるものをオープン・ショップと稱する。更に工場主が労働組合に對して反感を有し、其の集合契約を尊重しないばかりでなく、其團結をも妨害せんとして自己の工場にて使用する労働組合員を解雇せんと努力するのみでなく、労働組合員の雇入れを極力避けんとするものをアンチ・ユニオン・ショップ (Anti-Union Shop) と名づけられてゐる。尙其れ程でなく工場主は労働組合の團結權を尊重し、出來得る限り組合の援助を圖り、新たに労働者を雇入れる場合に若し候補者たる二人の労働者にして一人は労働組合員で他は然からざる際に此等のものが同一程度の技術能力を有する場合には労働組合員を採用するを契約する事をプリフェレンシャル・クロード・ショップ Preferential Closed shop と云ふが之れは嚴格なる意味でクロード・ショップではなかなければ工場主が單に労働組合に好意を持つて居つても、又なるべく労働組合員を使用する努力をせん事を明言しても、之は單に工場主側の任意の一方行爲

で、そうしない場合でも労働組合は如何ともなし得ないのであるからクロード・シエップにはならない。クロード・シエップは唯に工場主が労働者の團結權及其の論理的歸結である集合契約を粗く理解して労働組合以外の労働者は使用しないことを明言實行しつゝある事が重要々素である。

## 二 クロード・シエップの起原と發達

クロード・シエップは普通主として米國の労働組合が主張する組合政策の様に考へられてゐるが、之は決して米國に起源を有するものでもなく、且つ近時の發達でもないので、昔時から存在して居つたものである事はストクトンが説く通りである。そしてウェブは労働組合政策としての此手段は労働組合運動の起ると同時代に主張せられたばかりでなく、其以前に於ても此要求は宣明せられたものである。即ち十八世紀の工匠の俱樂部の如きは俱樂部員が其俱樂部員以外の者と

共に仕事をするが如きは夢にも思はない程であつた。而して往時の職工組合でも其基礎の鞏固な且つ歴史の長い組合程此要求を嚴格に組合員に實行せしめた。例へば蒸気釜製造者組合、鉛硝子製造者組合の如きは組合員以外のものを頗る峻嚴に排斥したる結果之れが普通の事になつた譯で、かくして絶對的に組合員以外の者と共に働かない事が各労働組合の方針であつた。更にブレンタノは十六世紀並びに十七世紀に於けるギルドの規定の或ものはギルド加盟者は非加盟者と共に労働することを禁止してゐる事實を擧げて居る。米國に於ては千八百〇二年以來漸次盛んになつた印刷職工組合が始めて組合以外のものを排斥し、非組合員と共に労働する場合には非組合員は組合の規定する労働條件に依る事を條件とした。其後諸種の労働組合の基礎が確實になるにつれてクロード・シエップの要求が主張せられ、千八百四〇年頃になると各種の労働組合は公然と非労働組合員と労働する事を拒絶するに及んだ。尤も現在同國に存在する労働組合でクロード・

シヨツプを餘り主張しないものもある。例へば郵便局従業員組合の如きもので、之れは其の設立の目的が主として組合員の共済機關として組織せられたるものであるから該組合は傭主と集團的に契約をしない、従つてクロード・シヨツプに就ては一切無關心である。或労働組合例へば交通労働組合の如きは其の組合員と共に労働する事は禁じてはないが、しかし非組合員は該労働組合の規定に準據すべき事を主張する。しかしながら同國の大部分の労働組合はクロード・シヨツプの原則を支持し、好機會さへあつたならば直ちに之れを實行せしめんとするものである、唯大部分の労働組合は未だ其の基礎が此點に關し雇主に對抗するには強大でないため隠忍して機會を窺つてゐるのである。之は無理のない事で、米國の様な極端に資本主義が暴戾を逞しくしてゐる國ではさもあるべき事で資本家は米國の自由だとか正義だとか云ふ美名に隠れて彼等に有利な現状維持を宣傳するから労働組合がクロード・シヨツプを實行する事は甚しく困難である。

### 三クロード・シヨツプの實行的手段

労働組合が資本家をしてクロード・シヨツプを公然實行せしむる迄に至る徑路は決して一樣ではなく臨機應變の措置を採つて居る。先普通の方法は工場の労働組合化的方法であつて工場内の非労働組合員を漸次組合に加入することを勧告懲通して工場内の大部分が労働組合員となれば、其の大多數的の壓力を以て残りの労働者を組合員たらしめ、遂に工場の労働者が組合加入者になれば、換言すれば該工場が完全に組合化せられれば其の勢を以て新たに使用せらるゝ労働者が組合員でない場合は其れを直ちに組合員たらしめ、其のものが其れを肯ぜない時にはあらゆる方法を以て其のものの労働を不愉快ならしめて、工場外に驅逐する事につとめる。其れから更に一步進めて雇主に對して公然に労働組合を認容せん事を要求し、非労働組合員の解雇を迫る。之れが雇主の容れる處となればクロ

ズド・シヨップは平和裡に組織せらるゝが、雇主が之れに反抗すれば同盟罷業の舉に出でて之れが貫徹を謀る。

しかし此のやり口は常にかく順調に進捗しない場合がある。時に依ると雇主は自己の工場の労働組合化を甚しく嫌厭し、それに氣付くや否や労働組合員を解雇する。斯る状態に陥ると組合員は公然としては工場内に就業する事が出来なくなるので非組合員の假面を覆つて工場の組合化を謀る場合がある。此れをするには勿論組合幹部の承認を得てやるもので該労働者は本名を使用せず、偽名を以てするか、若くは本名を以てする際には組合の名簿から其れを取り去つて、秘密名簿 (secretlist) に移してをる。かくして工場に紛れ込んで該工場内の労働者の最も勸告し易きから漸次組合に秘密裡に加盟せしめ、遂に過半数が組合員になつた場合に雇主に對してクロイズド・シヨップの實行を要求する。

斯の如く労働組合を嫌厭する雇主の所屬工場に對する手段は假面政策 (Under

Cover Policy) を以てするのも一方法ではあるが、時に依ると、非労働組合員に對して、労働組合が、恩赦 (Amnesty) 若くは組合加入金の割引を以て組合加入を勸告する事がある。即ち従來組合員であつた者が不正行爲の爲に組合の除名處分にあつて非組合員になつてゐるもの、若くは何等かの理由で組合の反感を買つて居るものに對し過去の組合に對する罪過を一切赦してやると云つて組合に加入を慫慂するのである。又一方組合の入會料が餘り高價なる爲め組合員たらざりしものに對して工場内の非労働組合員が關係的に或は場合に依ては個人的に加入せんとするならば入會料を割引してやるとして組合加入をすゝめる。かくして工場の労働者を労働組合に加入せしめて以てクロイズド・シヨップにするか、他方雇主に向つて最初から其の工場をクロイズド・シヨップにする様に勸告して、クロイズド・シヨップの契約を締結するのも一方法である。そして労働組合が此の要求を差出したる際雇主が之れを承認すれば直ちに其の工場は労働組合化せられたるも

のとなり、従つて非労働組合員は組合に加入するか、若しくは自ら工場を去るか、何れにさせねばならない。しからざればかゝる者は雇主に依つて解雇せらるる破目となる。

(164)

クロイズド・ショップの要求は多くの場合に於ては労働組合側から主張せらるるが、時に依ると雇主が自ら進んで、労働組合の要求をまたないで其の工場をクロイズド・ショップにするものがある。此れは雇主が労働組合運動に對して同情を有するか、若しくは營業上自己の工場をクロイズド・ショップにした方が有利である場合に起る。しかしかう云ふ事件は餘り多くはないらしい。其れが又當然の事である。

労働組合がクロイズド・ショップの實行を貫徹せる場合に之れを支持繼續する方法は大體二つある。其の一つはカード制 (Card System) と云はれるものである。此方法は古くから行はれてゐるもので、有効に行ふには随分困難なるもので

ある。そして此のカード面には其れを發行したる組合及實行者の姓名有効期間、組合幹部の姓名及組合の公印が記されてある。これを組合費の支拂を完了したるものに渡すので、其れを以て其の所持人たる労働者の労働組合員たる事を證明するものである。尙組合は新カードを三ヶ月毎に發行するものもあり、又毎月之れをなす者もある。労働組合は常に工場内に於ける労働者が此のカードを所持せるや否やを調査する。之れは工場内に設けてある工場委員と稱するものがやる場合もあり、又労働組合のかゝる事務的の事柄を擔當してゐる係の者所謂 (walkingdelegat) がなす事もある。尤も労働組合に依りては此の監視調査を全々雇主に委託して、雇主の使用する事務員に兼任を依頼する場合もないではないが、之れは極めて稀れである。更にクロイズド・ショップの實施にカードの代用としてボタンを使用する労働組合もある。之は一見してすぐ判明するから便利であるが、一面から考へると之は所持人の姓名がない故に紛失する節は正當の所持人でないもの

(165)

も之を偽はる事が出来る缺點がある。

クロロズド・シヨツプ實行の第二制度は所謂差引制 (Check off System) と云ふもので、これは雇主が労働者に賃銀を拂渡す前に組合費及其他の組合の経費を差引いて其のものを労働組合の會計係に渡す方法である。これはカード制よりも比較的容易に出来るが、労働組合は大體に於て此方法を喜ばない傾向がある。其の理由は労働組合が元來自らやるべきかゝる事務を雇主に依頼するは自己の弱點の表徴ともなり、又自助機關としては不正當のやり口である。加ふるに多くの場合に於て雇主は積極的にかゝる方法で其の使用する労働者をして半ば強制的に労働組合員たらしめる事を好まない事にも依る。

#### 四 雇主及労働者の態度

クロロズド・シヨツプに對する雇主の態度見解と労働者の其れとは全く相反し

てゐる事は詳述しなく共想像出来る。即ち大多數の雇主はオープン・シヨツプを主張してクロロズド・シヨツプに反對してかくの如きは雇主の權利を侵害するものであると考へる。彼等は其の所屬の工場に於て使用する労働者は勿論新たに雇入れた労働者は其の労働組合員たると、非労働組合員たるとは其の自由意思で、決して労働組合に支配せらるべきものではない事を主張する。尤も多數の雇主は労働者が團結して労働組合を組織し、其の適法なる職掌を遂行するは隨意であるが、労働組合が雇主對労働者間の自由契約に干渉し、労働組合員のみを使用する事を主張するは唯に契約の自由を蹂躪するのみならず、かくの如きは労働組合が組織せざる労働者の就業を阻害する不當の行爲であると信ずる。更に彼等は普通労働者を使用する際決して労働組合員なるが故に之れに對して差別的態度を示したり、若くは労働組合員たるが故に之れを解雇する如きはしない。故に工場内に於ける労働組合員は非労働組合員と相提携して共に労働すべしと力説する。反之

労働組合は之れを駁して雇主が其の工場内に使用する労働組合員及び非労働組合員に對して何等差別的態度を以て臨まないと云ふ事は常に虚言で口にはかくの如き一見公平なる言辭を弄するが、實際に於ては常に労働組合員を抑壓し、昇給の場合には非労働組合員を最初に解雇の場合には労働組合員を先に誡首するのが常で從來の事實は皆之れを證明すると主張してゐるのみならず労働条件の改善に伴ふ労働者の境遇の向上は皆之れ労働組合員の努力と犠牲の結果で、労働組合員以外の労働者は皆かゝる犠牲の結果生じたる利益に均霑するのであるが、此等のものが何等労働組合に貢献せざるは恰も種を蒔かずして果實を味ふが如きものであるから極めて不當である。其れのみでなくかゝる非労働組合員は労働組合員が其階級的解放の一端として雇主と爭議を開始する場合には動もすると罷業破りの破廉恥行爲に出づるものであるから、かゝる階級的裏切り者に對する労働組合員の嫌厭の念の盛んなるは當然で、従つて其等のものを平時に於て排斥し、之れと共に

労働を肯ぜざるは何等怪しむに足らないと主張する。尙労働組合はクロロズド・シヨップは雇主の雇傭の自由を侵害するものであると云ふ事に答へて労働組合は決して雇主の雇傭の自由を束縛するものではないので、唯労働組合員を雇入れる事を要求するのみであると力説し、更にクロロズド・シヨップの實行は労働組合の職掌貫徹上必要ばかりでなく、雇主に取りても有利である。何となれば若し總べての工場が労働組合員のみを使用する事になつて労働組合の標準条件で生産をやる事になれば各雇主は其他の雇主の仕拂ふ賃銀を正確に知る事が出来るから今日の如き激烈なる競争を生まないのですむ、又工場内の労働者が労働組合員と非労働組合員と對立する場合には常に暗闘が絶えないから全労働者の気分が合致しないが故に生産能率も増進しない、更にクロロズド・シヨップにすれば雇主は自己の製品に對して労働組合の組合證票 (Union Label) を使用する事が出来其結果製品の販賣高が増加すると添言してゐる。

## 五・クローズド・ショップの價值

思ふにクローズド・ショップは労働者が其の團結權の行使を完全に遂行せんとする政策である。そして労働組合が労働者の當然の正當機關で其の階級的解放に必要なものであるならば、其れを運用するに際して妨害になるあらゆる障礙物は除去せられなければならない。即ち、團結權のコラリイたる集合契約 (Kollektivvertrag) は完成せられねばならない。しかるに其れを困難ならしむる非労働組合員の存在するは不都合である。其れのみならずかゝる非労働組合員ををる事は屢労働組合の規定する労働條件を破壊する結果を來すから労働組合が之に反するは敢へて無理でない。況んや労働組合が雇主と相争ふ場合には此等の組織のない労働者は意識的若くは無意識的に罷業破りの醜態を演じる事となるから平時に於て労働組合がかゝる階級的裏切り者に對する反感の強烈なるはよしや其れが餘

りに感情的であるとの非難はあるが、正當なる事であると思はれる。

労働者が労働組合なる自助的機關に依つて、其の階級的解放運動を進展するにつれて、從來の如き資本家專制の産業制度を打破し労働條件の決定に際して集合契約を以てせんとし、其の手段としてクローズド・ショップを要求する事は極めて正當の事であらうと其れが僱主に取りて何等の利益を齎らさないとしても之れを否定する必要はない。しかし労働組合がクローズド・ショップの實行を迫り其れが僱主の認容せらるる處となり、集合契約が完全に行はるれば其れ以後は僱主と労働者と協議しつつ労働に従事するわけならばクローズド・ショップの價值は極めて微少なるもので、労働組合政策としては殆んど留意するに足らないものである。しかるに若しクローズド・ショップの要求の根據が之れに依つて労働組合の團結を愈鞏固にして、總ての労働者をして其進行に參與せしめ、工場管理權の獲得に一步近づかしめ、遂には生産の管理統制の全般を労働者の手中に收得せん



とする點に基づくものであるならば、クロイズド・ショップは労働者解放運動の機關たる労働組合政策として階梯的價値はあると思はれる。

翻つて労働組合運動の未だ初期時代で、従つて労働組合の基礎の慘ましい程薄弱な我國ではクロイズド・ショップの主張處ではない。労働者の團結權其ものも未だ事實に於ては確立されて居らない。故に我國の雇主が自ら進んで労働者の集合契約權を尊重して、クロイズド・ショップを實行する様な奇特なものは勿論ない。(尤もいゝ加減な半ば虚偽的な御爲ごなしの雇主のクロイズド・ショップはない方が千萬よい)要するに我國現在の主は安易にオープン・ショップでもアンチ・ユニオン・ショップでも勝手なショップを支持する事が出來得る。恐らくは歐米の資本家が美望して止まざる幸福なる時代である。資本主義の横暴極りなき、資本家萬能の米國でも資本家連がオープン・ショップを固持せんが爲めには非常な不斷且つ高價な努力をして労働者の正當なる團結權の進展を阻害せんと試みてゐ

る。然し事物の間斷なき進行は晝夜を別たず吾人の眼前に展開されつゝある。少兒はいつ迄も少兒ではない。春日新緑鬱蒼たる樺葉も秋霜の襲來と共に地上に凋落する。今日其の基礎が如何にも微弱で、加ふるに外觀的には其の存立を怪まれる程萎縮し、頽廢せる我國の労働組合運動も、いつかは挽回の機運に伴ふて、其勢力を擴大し、其の基礎を強固にし更に進んでクロイズド・ショップはあるか、生産管理統制の要求を主張する時機が來ないと斷定する事の出來得るものが何處にある。

## 第十一章 罷業破りと働勞組合

### 一 労働組合員は少数である

云ふ迄もなく労働組合は階級意識に覺醒したる労働者が、團結の力を以て其の解放を企圖せんとするものである。従つて、労働組合員の増加して多数になる程其れ丈け團結的勢力は強大になるのであるから、どの労働組合も組合員を増加する事には極力腐心してゐる。之れが爲めに。大概の労働組合では、組織者 (Organizer) なる者を選任して、此者をして到る處に行かshめて、或は組合加入者でないものを勧誘して組合に加盟せしめ、或は組合の支部のない處では種々の手段を講じて支部の創設に努力せしめてゐる。そして之れは、一の労働組合が其の加入者の増加を謀るのみならず、各種の労働組合、更に進んでは、世界各國の労働

組合が之に連絡提携して以て労働者階級の解放を貫徹せんとしてゐる。實にマルクスの叫んだ「世界の無産者團結せよ」(“Proletarier aller Länder vereinigt Euch!”) は今日に於ても依然として労働者の標語である。

然し現状から見ると歐米諸國の労働組合を組織してゐる労働者の數は、之れを組織して居らない者と比較すると、甚だ尠ない。尤も労働者の覺醒するにつれて労働組合員も急速度増加して行き、つある事は争はれない事であるが、従來は非組合員 (Non-union men) が随分多かつた。千九百十五年に於ける労働組合加入者は四百三十九萬九千五百九十六人で、之れを英國の全無産者に比すれば決して多い方ではない。又米國で労働團體の内の最も強大なるものと云はれてゐる米國労働聯合會の千九百十七年の會員は二百三十七萬一千四百三十四人である。だから何れの國の労働組合員も非組合員に對する感情は決して善くないので、労働組合の基礎が堅くなるにつれて、非組合員と共に肩を並べて労働をする事を肯ん

じないで、屢非組合員排斥の目的の爲めに同盟罷業に訴へる事さへある。之れは労働組合の立場から見ると無理もない事で、此等の非組合員は組合に加入して居らないのであるから、労働組合の決定した労働条件の標準に一切無頓着で、資本家と労働契約を取り結ぶ結果、屢労働組合が幾多の犠牲と努力に依つて獲得した労働条件を低落させる事がある。のみならず、労働組合員が一旦同盟罷業をやる事になると、此等の非組合員は動もすると罷業破りに變化する事がある。しかも幸ひにして、労働組合の要求が容認せられる事になると、従來の労働条件より改善されたる労働条件の恩恵に均霑するものは労働組合員ばかりでなく、此等の非組合員も亦其の利益に均霑するものである。これは如何にも不當で、非組合員は何等の努力も犠牲も拂はないで、其の利益を收得する事は、種を蒔かないで實を收める様なものであるから、是等非組合員に對して労働組合が反感を持つのは尤もな事である。

それでは何故労働者で労働組合に加入しない者が澤山あるのか。之れが理由は種々あるだらうが、ミツチエルは三ツ擧げてゐる。第一に、或労働者が労働組合に加入しないのは、組合内に面白からぬ情實がある場合である。即ち労働組合に依りては、眞に労働階級の向上のために運動してゐるのでなく、我利的の動機でやつてゐるものもないではない、斯かる場合には、眞正なる労働者は其れに加入する事を快としないが爲に、組合に加盟しないで居る。ミツチエルは斯の如き場合に公正なる労働者の採るべき態度は、組合外にあつて、組合に反抗するよりも組合に加入して組合の改革を謀り、之れを正當なるものにする事に努力するにあると主張してゐる。第二に、労働組合と行動を共にせざる労働者は、誤れる思想主義に囚はれてゐるもので、所謂個人主義者である。自分は勝手に自由に行動する。他人と共同する必要がないと考へる者であるが、かゝる思想が誤謬である事は論を俟たない事で。ロビンソンクルーソーの時代ならいざ知らず、現代の如き複

雜なる社會に唯我獨尊の個人主義的行動は最も忌むべき事である。次に労働組合員にならないものの最も重なる理由は、労働組合の労働者に及ぼす効果を理解しない事である。即ち團結の力に依つてのみ労働者は其の社會的並に經濟的向上を期することが出來得るものである事を會得しない、若しくは會得せんとしない労働者が、普通非組合員の大部分である事は明白の事で、我國に於ける労働者の大部分が労働組合を組織せざる所以のものは、或點迄は労働組合の利益が如何に多大であるかに無智であるからである。従つて、此の理由に依つて漫然組合員ならざる労働者は眞に組合の効果に目覺めたる時は最も熱心なる労働組合員となる事が屢ある。茲に於て、労働組合の宣傳は益大切の事になるのである。

## 二 罷業破りの特徴と其の種類

労働組合が其の最後の權力手段たる同盟罷業の舉に出づる場合に、其の憂慮す

る事項は數多あるが、罷業中罷業者及其の家族に生活資料を缺かさなない事と、罷業者の空席を他の労働者が充足しない事は最も注意する處である。折角罷業者が氣を揃へて雇主に對して罷業しても、他の労働者が其等のものに代つて就業すれば其の罷業は何等の効果をも顯さない事は明白である。

故に罷業者は他の労働者が罷業者の地位を奪はんとする者に對しては、其の階級的良心に訴へて、其れを他に轉じようとする。然るに、他の労働者が其の懲懲に從はないで、無理に就業しようとする時は、屢罷業者と罷業破りとの間に争闘が始まり罷業者は時に罷業破りに暴行を加へる事がある。一體罷業破りは如何なる方面から考へても卑劣なる行爲で、其れが労働者である場合には、彼れは確かに自己の階級を裏切る背叛者である。よしや罷業破りは、罷業者の労働組合に加入してをらないにしても、又其れと直接の何等の交渉を有しないにしても、罷業者が其の労働條件の改善のために、或は労働者の當然の權利を進展させる爲めに